

V
参
考
一
覽
表

1. 歴代評議員一覽

氏名	在職期間 (在任年)
野村兼太郎	1951 ~ 1959
石井 良助	1951 ~ 1959, 1961 ~ 1963, 1967 ~ 1984
岩井 大慧	1951 ~ 1957
岩生 成一	1951 ~ 1959, 1961 ~ 1963
羽原 又吉	1951 ~ 1959, 1961 ~ 1963
大久保利謙	1951 ~ 1959, 1961 ~ 1978
荻野三七彦	1951 ~ 1959, 1961 ~ 1963
坂本 太郎	1951 ~ 1959, 1961 ~ 1963
辻 善之助	1951 ~ 1953
古島 敏雄	1951 ~ 1959, 1961 ~ 1963, 1967 ~ 1978, 1980 ~ 1988
丸山 二郎	1951 ~ 1961
森末 義彰	1951 ~ 1959, 1962 ~ 1963
渡辺 世祐	1951 ~ 1955
渋沢 敬三	1952 ~ 1963
上原 専禄	1953 ~ 1957
藤井甚太郎	1955 ~ 1959
岡 正雄	1957 ~ 1961
山本 達郎	1957 ~ 1961, 1978 ~ 1988
石田英一郎	1961 ~ 1963
豊田 武	1961 ~ 1980
宝月 圭吾	1961 ~ 1963, 1967 ~ 1984
和歌森太郎	1961 ~ 1963

氏名	在職期間 (在任年)
古野 清人	1962 ~ 1963
木村 礎	1967 ~ 1976
児玉 幸多	1967 ~
小葉田 淳	1967 ~ 1984
杉本 勲	1967 ~ 1976
麻生 磯次	1972 ~ 1978
白田甚五郎	1972 ~ 1986
佐々木八郎	1972 ~ 1980
佐藤喜代治	1972 ~ 1986
鈴木 忠直	1972 ~ 1978
手塚 富雄	1972 ~ 1982
中村 幸彦	1972 ~ 1978
野間 光辰	1972 ~ 1984
久松 潜一	1972 ~ 1976
松尾 聡	1972 ~ 1984
山岸 徳平	1972 ~ 1978
小林 清治	1976 ~ 1982
斉藤 正	1976 ~
秀村 選三	1976 ~ 1982, 1988 ~
阿部 秋生	1978 ~
小田切 進	1978 ~
久曾神 昇	1978 ~ 1986
谷山 茂	1978 ~ 1986
松田 智雄	1978 ~ 1990

氏 名	在 職 期 間 (在任年)
伊地知鐵男	1980 ~ 1986
井上 光貞	1982 ~ 1983
加藤 周一	1982 ~
土田 直鎮	1983 ~
林 大	1982 ~
阪倉 篤義	1984 ~
坪井 清足	1984 ~
中井 信彦	1984 ~ 1990
橋本不美男	1984 ~ 1990
宮川 満	1984 ~
猪瀬 博	1986 ~
今井 源衛	1986 ~
上山 春平	1986 ~
神保 五彌	1986 ~ 1988
田中 裕	1986 ~
秋山 虔	1988 ~
京極 純一	1988 ~
有馬 朗人	1990 ~
井内慶次郎	1990 ~
尾藤 正英	1990 ~

2. 歴代運営協議員一覧 (館内は除く)

氏 名	在 職 期 間 (在任年)
秋山 虔	1982 ~ 1988
今井 源衛	1982 ~ 1986
小林 清治	1982 ~
佐竹 昭廣	1982 ~
神保 五彌	1982 ~ 1986
秀村 選三	1982 ~ 1988
尾藤 正英	1982 ~ 1990
松本 隆信	1982 ~ 1988
水谷 静夫	1982 ~
有吉 保	1984 ~
伊藤 正義	1986 ~
久保田 淳	1986 ~
石井 進	1988 ~
稲賀 敬二	1988 ~
平澤 五郎	1988 ~
大口勇次郎	1990 ~

3. 歴代史料館員一覧（氏名は就任順、職名は元館員は退任時、現館員は現時点のもの）

氏名	在職期間（／は退職時不明）	職名
犬丸 秀雄	1946.8～1950	文部事務官 科学教育局人文科学研究課長
中田 易直	1946.8～1949.5	文部事務官 科学教育局人文科学研究課史料館担当
荻野 博	1946.8～1950.6	文部事務官 大学學術局學術課史料館担当
所 三男	1947.10～1965.3.31	調査員
田久保清子	1947～1949.3	臨時筆生
沼田 次郎	1947～1948.3	調査員
浅井 潤子	1948.10～1991.3.31	教授
鶴岡実枝子	1949.4～	教授
大石慎三郎	1949.4～1952.3	臨時筆生
大石（旧姓谷藤）怜子	1949.4～1962.3	文部事務官研究職
荒井（旧姓児玉）知子	1949.4～1952.3	臨時筆生
関（旧姓永戸）綾子	1950.4～／	臨時筆生
溝渕 泰男	1950.4～／	臨時筆生
岡野 澄	1950～1966	大学學術局審議官兼文部省史料館長
槐 礼一郎	1950.6～1967.1.16	文部事務官
原島 陽一	1951.4～1990.3.31	教授
吉永 昭	1951.4～1958.3	臨時筆生
中井 信彦	1951.4～／	調査員
山口 栄蔵	1951.4～1962.1	文部事務官研究職
田村 市郎	1951.4～1962.3	用務員
田嶋	1951.4～／	用務員
遠藤 武	1951.5～1965.11.15	文部事務官研究職

氏 名	在 職 期 間 (/ は退職時不明)	職 名
安澤 秀一	1951.9 ~ 1961.3 1978.4.1 ~ 1990.3.31	文部事務官研究職 教授
松沢 秀	1951.4 ~ 1953	臨時筆生
五味(旧姓加藤)三代子	1962 ~ 1956	臨時筆生
藤村 潤一郎	1953.4 ~ 1988.4.31	教授
鈴木 陽子	1955.7 ~ 1965.3	事務補佐員
吉里 邦夫	1961 ~ 1965.6.1	文部省大学学術局学術課長兼文部省史料館長
小川 富史	1961.4 ~ /	臨時筆生
大野 瑞男	1961.6 ~ 1983.3.31	教授
秋山 健	1961.10 ~ 1972.5	文部事務官 (国文学研究資料館管理部へ配置替え)
鎌田 永吉	1962.4 ~ 1976.6.30 (死去)	教授
大給 近達	1962 ~ 1967.4.1	文部事務官研究職
中村俊亀智	1962 ~ 1975.9.30	助教授
渡辺	1963.4 ~ 1963.9	文部事務官
川平	1964.2 ~ 1965.3	文部事務官
西村 瑞夫	1965.4 ~ 1972.5.30	文部事務官 (国文学研究資料館管理部へ配置替え)
須田 八郎	1965.6.1 ~ 1966.2.15	文部省大学学術局学術課長兼文部省史料館長
小和田武紀	1966.2.16 ~ 1971.12.31	文部省史料館長
奥寺寿美子	1966.5.20 ~ 1967.8.31	事務補佐員
斉藤 重臣	1966.7.1 ~ 1969.1.31	史料館庶務係長
泉谷 弘幸	1966.7.16 ~ 1970.12.1	文部事務官
鈴木 寿	1967.7.1 ~ 1977.4.1	教授 (国文学研究資料館史料館長)
榎本 宗次	1967.7.1 ~ 1982.3.11 (死去)	教授 (国文学研究資料館史料館長)
木村 礼子	1967.9.11 ~ 1968.3.1	事務補佐員

高橋美津代	1968.4.1 ~ 1968.7.31	事務補佐員
森田 京子	1968.8.1 ~ 1969.2.28	事務補佐員
大内 登	1969.2.1 ~ 1972.5	史料館庶務係長
伊藤 米子	1969.3.1 ~ 1970.12.31	事務補佐員
国沢 つぎ	1971.1.5 ~ 1971.3.31	事務補佐員
竹之内重雄	1971.2.16 ~ 1972.5.30	文部技官 (国文学研究資料館管理部へ配置替え)
福地 (旧姓大中) 敏子	1971.4.1 ~ 1972.11.15	事務補佐員
古市 正俊	1972.1.1 ~ 1972.4.30	文部省大学学術局情報図書館課長兼文部省史料館長事務取扱
菅原 通夫	1972.10.1 ~ 1974.4.30	文部事務官 (国文学研究資料館管理部へ配置替え)
井上 勝生	1972.10.1 ~ 1978.3.1	助手
木口 信子	1972.10.13 ~ 1975.3.31	事務補佐員
小野 義信	1973.4.1 ~ 1975.3.31	文部事務官
深川美枝子	1973.4.1 ~	文部事務官
林 宏保	1974.5.1 ~	文部事務官
小木曾 (旧姓中田) 千代子	1975.4.1 ~ 1975.6.30	事務補佐員
相京 (旧姓内藤) 真澄	1975.4.1 ~ 1981.7.31	事務補佐員
山田 哲好	1975.7.1 ~	助手
大藤 修	1975.10.1 ~	助教授
安藤 正人	1977.4.1 ~	助教授
笠谷和比古	1978.4.1 ~ 1989.4.1	助手
廣瀬 睦	1981.8.1 ~	事務補佐員
市古 貞次	1982.3.11 ~ 1982.4.1	国文学研究資料館長兼史料館長事務取扱
小山 弘志	1982.4.1 ~	国文学研究資料館長兼史料館長事務取扱
森 安彦	1984.4.1 ~	教授
渡邊 尚志	1988.4.1 ~	助手

氏名	在職期間（／は退職時不明）	職名
丑木 幸男	1990.9.1～	助教授
大友 一雄	1990.4.1～	助手
長坂 陽子	1990.4.1～1990.7.31	事務補佐員
毛塚 万里	1990.8.1～	事務補佐員
渡辺 浩一	1991.4.1～	助手
大場 菊乃	1991.4.1～	事務補佐員
高橋 真理	1991.4.1～	事務補佐員

4. 収蔵史料一覧

所蔵史料 353件 約50万点 マイクロフィルム 134件 2,691リール
 受託史料 14件 約8千点 民俗資料 1件 約5千点

(1). 所蔵資料府県別一覧

- ・文書名のつぎの（ ）の中は内容を示す。
- ・○内は既刊の目録集数 ・㊦はマイクロフィルム収集史料

北海道

- 利尻戸長役場書類
- 開拓使函館支庁書類
- ㊦松前松前家文書（大名）

青森県〔陸奥国〕

- ㊦弘前津軽家文書（大名）

岩手県〔陸奥国〕

- 下閉伊郡楸ヶ崎村佐々木家文書（宮古給人・地主）

宮城県〔陸奥国〕

- ㊦仙台小野家文書（伊達藩士・ギリシャ正教司祭）
- ㊦仙台支倉家文書（藩士）

秋田県〔出羽国〕

- ㊦秋田郡久保田小貫家文書（藩士）
- ㊦秋田郡久保田上肴町記録
- 秋田郡大館栗森家文書（商家・地主）
- 秋田郡大館中田家文書（地主）
- ㊦秋田郡大館武茂家文書（藩士）
- ㊦秋田郡十二所岡本家文書（藩士）
- 秋田郡北比内片山村谷地田家文書（肝煎）
- ㊦秋田郡南比内二井田村一関家文書（肝煎）
- ㊦㊦同 一関家文書
- ㊦秋田郡大葛金山荒谷家文書（金山支配人）
- ㊦秋田郡阿仁鉾山記録
- 武藤鉄城蒐集史料（角館周辺）

平鹿郡角間川村本郷家文書 (地主・商人)
平鹿郡沼館村土地租税資料
雄勝郡湯沢佐竹南家文書 (大名一門・所預)
雄勝郡湯沢町小川家文書 (久保田藩藏元)
雄勝郡岩崎村肝煎記録

山形県〔出羽国〕

山形県六郡土地関係書類
山形県三郡諸村記録

⑤田川郡大山村大滝家文書 (年寄)
⑥田川郡鶴岡宇治家文書 (大庄屋)
置賜・村山郡諸家文書

⑨⑩村山郡山形宝幢寺文書 (新義真言宗寺院)

⑦村山郡山家村山口家文書 (名主)

⑩村山郡小関村宗門帳

村山郡観音寺村岡田家文書 (名主)

村山郡大町村文書

村山郡宮宿村今井家文書 (地主)

福島県〔陸奥国〕

金沢春友蒐集史料
白川郡棚倉馬場不動院文書 (近津明神別当)
白川郡川上下村文書 (庄屋)
白川郡中石井村鈴木家文書 (名主)
白川郡栃本村根本家文書 (大庄屋)
⑭白河郡踏瀬村筋内家文書 (庄屋・宿問屋)
石川郡大畑村文書
⑮会津若松築田家文書 (町年寄)

茨城県

〔常陸国〕

⑮土浦土屋家文書 (大名)

⑯同 土屋家文書

⑮土浦大久保家文書 (藩士)

⑰行方郡牛堀村須田家文書 (庄屋)

⑱同 須田家文書

〔下総国〕

⑳㉑相馬郡藤代村飯田家文書 (名主・本陣)

㉒相馬郡川原代村木村家文書 (旗本跡名主)

㉓同 木村家文書

㉔相馬郡川原代村池端木村家文書 (名主)

栃木県〔下野国〕

㉕那須郡黒羽大関家文書 (大名)

都賀郡吹上有馬家文書 (大名)

足利郡岩井村貢租資料

群馬県〔上野国〕

⑰群馬県庁文書

勢多・群馬・甘楽郡戸長役場書類

⑱利根郡沼田土岐氏家中由緒書

碓氷郡原市村文書 (庄屋)

㉑佐位郡東小保方村萩原家文書 (旗本陣屋元)

㉒同 萩原家文書

㉓邑楽郡館林秋元家文書 (大名)

⑮邑楽郡館林福井家文書 (秋元家藩士)

㉔同 福井家文書

⑨館林市立図書館所蔵史料（秋元氏関係）

埼玉県〔武蔵国〕

⑩幡羅郡永井太田村掛川家文書（旗本賄名主）

⑩幡羅郡下奈良村吉田家文書（江戸地主）

大里郡大麻生村古沢家文書（名主・戸長）

埼玉郡袋山村文書

埼玉郡酒巻村文書

足立郡桶川町府川家文書（宿問屋・名主）

比企郡高野倉村山崎家文書（名主）

③入間郡川越横田家文書（町年寄・商人）

千葉県

〔下総国〕

相馬郡塚崎村守家文書（神官）

〔上総国〕

天羽郡萩生村斉藤家文書（浜方名主）

山辺郡消名幸谷村飯高家文書（名主）

⑨山武郡柴山太田家文書（大名）

⑨武射郡木戸村森山家文書（旗本）

長柄郡粟生野村秋葉家文書（名主）

夷隈郡押日村小高家文書（医家）

⑨君津郡佐貫阿部家文書（大名）

⑨君津郡飯野保科家文書（大名）

⑨久留里黒田家文書（大名）

⑨埴生郡立木村高橋家文書（地主）

〔安房国〕

⑨花房西尾家文書（大名）

東京都〔武蔵国〕

九店仲間差配廻船史料

江戸神田（奈良茂）家文書

③江戸金吹町播磨屋中井家文書（両替商）

⑨同 中井家文書

細川家家政所書類

⑨白木屋大村家文書（呉服・太物問屋）

豊島郡三河島村松本家文書（名主）

荏原郡品川町文書

多摩郡後ヶ谷村杉本家文書（名主）

④多摩郡蔵敷村鈴木家文書（地主・戸長）

⑥多摩郡連光寺村富沢家文書（名主）

⑥多摩郡連光寺村富沢分家文書（旗本賄名主）

多摩郡中和田村石坂家文書（名主）

多摩郡寺方村佐伯家文書（名主）

多摩郡八王子河野家文書（旗本・千人頭）

神奈川県

〔相模国〕

④大住郡土屋村原家文書（旗本窪田氏賄名主）

大住郡名古屋村小泉家文書

新潟県

県下不動産船舶公証書類

〔越後国〕

新潟県五郡土地関係書類

蒲原郡石塚村他四ヶ村文書

蒲原郡下新村本間家文書（地主）

三島郡深沢村高頭家文書 (庄屋)

魚沼郡浦佐村関家文書 (庄屋)

魚沼郡木落村田口家文書 (庄屋・大肝煎)

魚沼郡下条上組村文書 (庄屋)

魚沼郡下船渡村村山家文書 (庄屋)

刈羽・頸城郡下諸村及諸家史料

頸城郡行野村横尾家文書 (地主・庄屋)

頸城郡長走村光林寺旧蔵仏典

頸城郡川上村松岡家文書 (庄屋)

頸城郡荒屋村相沢家文書 (庄屋・地主)

㊦㊧㊨頸城郡岩手村佐藤家文書 (大肝煎・庄屋)

頸城郡町田村文書

頸城郡諸村役場書類

頸城郡大鹿村役場書類

頸城郡田村宮崎家文書 (大肝煎・地主)

㊩高田榑原家文書 (大名)

㊪高田藩記録 (大名)

〔佐渡国〕

㊫雑太郡相川町川上家文書 (鉾山史料)

㊬舟崎文庫史料

㊭雑太郡新町村山本家文書 (町年寄・問屋)

富山県〔越中国〕

新川郡吉島村神保家文書 (十村並)

新川郡萩原村黒田家文書 (肝煎)

㊮射水郡島村折橋家文書 (十村)

石川県

〔能登国〕

鳳至郡中居村国田家文書 (鋳物師)

福井県

〔越前国〕

越前史料 (春嶽公記念文庫旧蔵家史編纂史料)

丹生郡上糸生村松田家文書 (庄屋)

㊯丹生郡上糸生村千穂家文書 (大庄屋)

丹生郡新保浦両林家文書 (浦庄屋)

㊰丹生郡東鯖江村窪田家文書 (庄屋)

敦賀郡敦賀平山家文書 (商家)

〔若狭国〕

遠敷郡新道村藤井家文書 (庄屋・戸長)

遠敷郡安賀里村岡本家文書 (地主)

㊱遠敷郡小浜古河家文書 (廻船問屋)

長野県〔信濃国〕

筑摩県・長野県布達書類

水内郡五荷村水野家文書 (庄屋)

水内郡水沢村文書

高井郡東江部村山田家文書 (名主)

㊲㊳㊴㊵松代真田家文書 (大名)

㊶同 真田家文書 (大名)

埴科郡松代依田家文書 (藩士)

埴科郡松代竹内家文書 (藩士)

松代藩家臣書状

㊷真田家家中石坂家文書 (藩庁史料)

㊸飯島文庫史料 (真田家御事蹟稿)

④④⑤⑤埴科郡松代八田家文書（商家）

- ㊦埴科郡松代八田家所蔵真田家家中系図
- 埴科郡東条村相沢家文書（名主・御城番組）
- 更級郡田野口村小林家文書（地主・地頭）
- 安曇郡大町柳沢家文書（大町木場）
- 安曇郡洪田見村師岡家文書（庄屋）

④安曇郡保高町村小川家文書（庄屋）

北安曇郡諸村役場書類

㊦祢津久松家文書（旗本）

小県郡祢津西町高橋家文書（商家）

小県郡東上田村田中家文書（名主）

小県郡東内村役場書類

㊦小県郡上田原町問屋日記

㊦小県郡旧殿城村宝蔵庫文書（旗本陣屋）

㊦小県郡旧殿城村会所文書（割番庄屋）

㊦佐久郡輕井沢宿亀屋佐藤家文書（脇本陣・名主）

㊦佐久郡輕井沢宿佐藤家文書（本陣・問屋）

㊦佐久郡平原村小林家文書（名主）

佐久郡御馬寄村町田家文書（名主）

④⑤佐久郡御影新田柏木家文書（新田開発人）

佐久郡芦田宿今井家文書（神官）

佐久郡内山村文書（名主）

②佐久郡下海瀬村土屋家文書（名主）

㊦佐久郡旧海瀬村引継文書

佐久郡海尻村文書

北佐久郡小諸町・大里村戸長役場書類

北佐久郡協和村役場書類

高嶋藩領村々宗門改帳

諏訪郡下諏訪村役場書類

筑摩郡桐原村文書

筑摩郡下今井村文書

筑摩郡下今井村桃井家文書（名主）

筑摩郡神戸村丸山家文書（名主）

上伊那郡諸村役場書類

下伊那郡諸村役場書類

伊那郡福島片桐家文書（庄屋）

伊那郡加々須村勝家文書（名主）

伊那郡柿野沢村文書

伊那郡島田村松村家文書（庄屋）

伊那郡島田村森本家文書（庄屋）

山梨県〔甲斐国〕

北都留郡諸村役場書類

南都留郡大富村役場書類

㊦甲府坂田家文書（町年寄）

㊦頼生文庫史料（町年寄用留）

㊦甲州文庫史料（甲府町方史料）

⑤⑬山梨郡下井尻村依田家文書（地主）

⑬山梨郡下井尻村井尻家文書（名主）

東山梨郡平等村役場書類

東八代郡一之宮村役場書類

西八代郡古閑村役場書類

北巨摩郡増富村役場書類

巨摩郡穴山村生山家文書（神官）

巨摩郡河原部村文書

中巨摩郡諸村役場書類

巨摩郡今福村文書（名主）

巨摩郡西条村野呂瀬家文書

南巨摩郡諸村役場書類

⑬巨摩郡青柳村秋山家文書（名主）

静岡県

〔伊豆国〕

⑥田方郡丹那村川口家文書（名主）

⑦田方郡菲山江川家文書（幕府代官）

⑳㉑君沢郡長浜村大川家文書（名主・津元）

㉒君沢郡内浦史料

〔駿河国〕

②富士郡岩本村文書（富士川渡船場）

庵原郡今宿村池田家文書（名主）

有渡郡聖一色村寺尾家文書（名主）

〔遠江国〕

榛原郡村々持高書上帳

榛原郡村々免状

①榛原郡嶋村山田家文書（庄屋）

周知郡森町村山田家文書（鋳物師）

⑦同 山田家文書

①佐野郡桑地村加茂家文書（庄屋）

山名郡久津部村文書（庄屋）

豊田郡久保村秋鹿家文書（社家）

②引佐郡気賀宿中村家文書（本陣・庄屋）

敷知郡吉津村他四ヶ村戸長役場書類

愛知県

⑰愛知県庁文書

〔三河国〕

㉓八名郡乗本村菅沼家文書（名主）

㉔⑦同 菅沼家文書

額田郡東阿知和村内田家文書（大庄屋）

額田郡長嶺村文書（名主）

⑳額田郡深溝村八田家文書（旗本板倉氏代官）

額田・碧海郡村々免状

幡豆郡楠村文書（庄屋）

碧海郡刈谷太田家文書（新田地主）

碧海郡小垣江村文書（庄屋）

⑤渥美郡小塩津村文書

〔尾張国〕

名古屋知多屋青木家文書（商家）

名古屋井桁屋三輪家文書（商家）

名古屋渡辺家文書（商家）

愛知郡熱田岡本家文書（地主）

知多郡半田村中埜家文書（地主）

丹羽郡犬山鈴木家文書（医家）

海東郡甚目寺村吉川家文書（割元）

海西郡大宝前新田神戸家文書（新田地主）

海西郡葛木村渡辺家文書（庄屋）

海西郡森津新田武田家文書（地主・庄屋）

海西郡綱浦村木下家文書（地主）

海西郡村々免状

岐阜県

〔飛騨国〕

大野郡清見村戸長役場書類

大野郡丹生川村戸長役場書類

〔美濃国〕

郡上郡高砂村小酒井家文書（地主）

加茂郡八百津町役場書類

加茂郡和知村役場書類

恵那郡三郷村役場書類

武儀郡山田村長田家文書（庄屋）

山県郡三輪村後藤家文書（庄屋）

⑤山県郡東深瀬村林家文書（庄屋）

本巣郡文珠村文書

本巣郡曾井中島村青木家文書（庄屋）

大野郡鹿野村栗野家文書（庄屋）

厚見郡日野新田村村瀬家文書（庄屋）

厚見郡加納宿汲田家文書（宿年寄）

羽栗郡下印食村渡辺家文書（庄屋）

中島郡大須村戸長役場書類

安八郡背木村小宅家文書（名主）

安八郡更屋敷村早崎家文書（名主）

安八郡平村文書

不破郡荒尾村土屋家文書（戸長）

不破郡府中村貢租史料

不破郡岩手村竹中家文書（旗本）

不破郡表佐村飯沼家文書（医家）

不破郡表佐村役場書類

不破郡垂井村役場書類

⑤多芸郡島田村千秋家文書（地主）

多芸郡大場村松永家文書（庄屋）

多芸郡下笠村諸家文書

多芸郡根古地新田村文書（庄屋）

多芸郡志津村高木家文書（名主）

石津郡内記村伊藤家文書（庄屋）

石津郡市之瀬村三宅・桑原家文書（庄屋）

⑥石津郡市之瀬村桑原家文書（石河氏碑屋）

滋賀県〔近江国〕

坂田郡醒ヶ井村文書（宿史料を含む）

坂田郡東黒田村役場書類

坂田郡高橋村野本家文書

犬上郡彦根前川家文書

愛智郡中一色村嶋村家文書（庄屋）

愛智郡南清水村大橋家文書（庄屋）

神崎郡川並村川島・塚本家文書

⑩蒲生郡八幡町山形屋西川家文書（蚊帳・畳表商）

⑩⑥同 西川家文書

蒲生郡南津田村文書

⑩蒲生郡鏡村玉尾家文書（庄屋）

⑩⑥蒲生郡竜王町鏡区有文書（庄屋）

蒲生郡古川村中島家文書（庄屋）

甲賀郡田堵野村大原家文書（甲賀古土）

甲賀郡妙感寺村奥村家文書（庄屋）

甲賀郡信楽代官勘定目録

野洲郡中里村田中家文書

野洲郡開發村木屋高谷家文書（材木商）

栗太郡駒井沢村木戸家文書（庄屋）

⑤栗太郡草津宿田中家文書（本陣）

高島郡マキノ町役場引継書類

三重県

〔伊賀国〕

名張郡夏見村深山家文書（庄屋）

〔伊勢国〕

伊勢国国絵図文書（元禄度）

桑名郡木曾岬村文書

一志郡松崎浦松嶋家文書（浦庄屋）

比佐古文庫旧蔵松阪商業資料

松阪雜纂（三井高逯蒐集資料）

飯高郡松阪山城屋水谷家文書（飛脚問屋）

飯野郡清水村飯田家文書（庄屋）

③飯野郡射和村大黒屋富山家文書（呉服・両替商）

飯野郡阿波曾村文書

多気郡斎宮村乾家文書（庄屋）

度会郡八日市場橋屋麻谷家文書（町年寄）

〔志摩国〕

志摩郡鳥羽須藤家文書（藩士）

志摩郡鳥羽鈴木家文書（稲垣家蔵方）

志摩郡鳥羽高砂屋文書

志摩郡名田村文書

京都府

〔山城国〕

三条西家文書（公家）

清水谷家文書（公家）

駕輿丁史料

飛鳥井雅豊日記

袖岡玄蕃助家記（藏人所衆）

徳大寺家文書（公家）

④久世家文書（公家）

⑤同 久世家文書

京都万屋小堀家文書（両替商）

三条家文書（公家）

二条家文書（公家）

⑥平松家文書（公家）

⑦京都最上屋喜八家文書（紅花荷宿）

⑧京都蜷川家文書（東寺公人）

⑨京都柏原家文書（呉服・太物問屋）

⑩京都古久保家文書（町代）

⑪京都那波家文書（大名貸史料）

⑫京都新町通六角町文書

⑬京都錦小路通占出山町文書

⑭京都冷泉町文書

葛野郡嵯峨臨川寺文書（天竜寺塔頭）

乙訓郡諸村文書

乙訓郡長野新田村三宅家文書（庄屋）

㊦久世郡淀稻葉家中文書（大名・家臣）

㊦久世郡淀田辺家文書（藩士）

〔丹後国〕

加佐郡田辺三宅家文書（藩士）

熊野郡久美浜町引継書類

中郡五箇村他五ヶ村戸長役場書類

〔丹波国〕

天田郡菟原中村他四ヶ村戸長役場書類

大阪府

〔摂津国〕

㊦三島郡高槻永井家文書（大名）

鳥上郡氷室村吉田家文書（庄屋）

⑭大阪加嶋屋長田家文書（入替両替商）

③大阪小橋屋平井家文書（呉服・両替商）

大阪泉屋住友家大名貸証文

東成郡天王寺村宗門人別帳及名寄帳

㊦住吉郡平野郷杭全神社保管文書（平野郷町方）

〔河内国〕

㊦交野郡甲斐田村竹内家文書（庄屋）

㊦交野郡野村小原家文書（庄屋）

㊦若江郡長田村田中家文書（庄屋）

㊦若江郡近江堂村木田家文書（庄屋）

㊦若江郡下小坂村山沢家文書（大庄屋）

〔和泉国〕

㊦大鳥郡上神谷豊田村小谷家文書（割元庄屋）

㊦㊦同 小谷家文書

日根郡佐野村食野家文書

兵庫県

〔摂津国〕

川辺郡上之島村岡村家文書（庄屋・戸長）

兵庫北風家記録（諸問屋年寄）

〔但馬国〕

㊦出石仙石家文書（大名）

㊦出石郡出石町長良家文書（大庄屋）

〔播磨国〕

加古郡下西条村大西家文書（庄屋）

加古郡八幡村戸長役場書類

加古郡荒井村戸長役場書類

印南郡米田村他七ヶ村戸長役場書類

印南郡曾根村戸長役場書類

㊦神東郡屋形池田家文書（旗本）

飾磨県第三大区村々学校関係書類

㊦姫路酒井家文書（大名）

㊦赤穂郡新浜村田測家毎日記

〔淡路国〕

津名・三原両郡村々戸長役場書類

奈良県〔大和国〕

添上郡樺本村文書（庄屋）

㊦旗本船越氏和州御用場記録

吉野郡中増村文書（庄屋・戸長）

和歌山県〔紀伊国〕

紀伊国古文書（本居旧蔵本）

名草郡齒部村園部家文書（庄屋）

④伊都郡慈尊院村慈尊院中橋家文書（高野政所）

伊都郡向副村平野家文書（戸長）

牟婁郡新宮水野家文書（藩士）

中国地方

鳥取・岡山・広島県下戸長役場書類

島根県

〔出雲国〕

④松江松平家文書（大名）

島根郡北講武村文書

意宇郡大谷村戸谷家文書（庄屋）

大原郡大東村木村家文書（地主）

仁多郡下布施村橋詰屋文書

仁多郡稲田村安部家文書

簸川郡神門村役場書類

〔石見国〕

安濃郡大田町中村家文書（商家）

岡山県

〔美作国〕

⑦津山松平家文書（大名）

⑦津山玉置家文書（町大年寄）

勝北郡勝田村役場引継書類

勝南郡第二十区戸長役場書類

勝南郡和田村小林家文書

西北条郡西一宮村中島家文書（庄屋）

〔備前国〕

津高郡福山村役場引継書類

〔備中国〕

上房郡上竹荘村役場引継書類

⑦備中松山板倉家文書（大名）

広島県

〔備後国〕

沼隈郡百島村戸長役場書類

沼隈郡浦崎村戸長役場書類

〔安芸国〕

沼田郡小河内村戸長役場書類

高宮郡鈴張村戸長役場書類

山口県

⑦毛利家文庫史料（大名）

⑦益田家文書（毛利家永代家老）

〔周防国〕

吉敷郡仁保上郷・中郷村絵図

〔長門国〕

厚狹郡際波村三隅家文書（庄屋）

豊浦郡清末毛利家文書（大名）

徳島県〔阿波国〕

④徳島蜂須賀家文書（大名）

⑦板野郡斎田村山西家文書（塩大問屋）

香川県〔讃岐国〕

⑦阿野郡北青海村渡辺家文書（大庄屋）

⑦豊田郡井関村佐伯家文書（庄屋）

愛媛県〔伊予国〕

- ㊦宇和島伊達家文書（大名）
- ㊦鈴村讓閑係文書（宇和島藩士・台湾神社主典）
- ㊦宇摩郡川之江村大庄屋文書
- ㊦宇摩郡川之江村長野家文書（郷士格）
- ㊦伊予郡上野村玉井家文書（庄屋）

佐賀県〔肥前国〕

- 肥前国略絵図
- ㊦佐賀鍋島家文書（大名）
- 小城鍋島家文書（大名）
- ㊦同 鍋島家文書

熊本県〔肥後国〕

- 肥後藩南関番所通行手形
- ㊦熊本市原屋岡崎家文書（町別当役・商家）
- ㊦天草郡本戸馬場村木山家文書（大庄屋）

全国及蒐集史料

- 諸国郷帳
- 寛文度領地御朱印目録留
- 諸国地誌
- 日本総図
- 武鑑類（聴水閣旧蔵本など）
- 諸礼書（有職故実写本）
- 定所雜録
- ㊦祭魚洞文庫旧蔵水産史料
- ㊦祭魚洞文庫旧蔵史料
- ㊦三井高維蒐集史料（商業関係）

浜村栄三郎蒐集史料

聴水閣蒐集古文書

小杉楯邨蒐集史料

伊藤為之助蒐集史料

古屋幸太郎蒐集史料

①日本実業史博物館旧蔵資料（絵画・地図・番付・竹森文庫・文書・書籍・広告・写真）

薄井福治旧蔵記録

㊦岡谷繁実文書

㊦蜷川家文書（幕府右筆）

㊦山岡家文書（旗本）

水野成夫収集記録（山鹿語類）

(2). 受託史料

松浦武四郎稿本類（北方探検）

白木屋大村家文書（材木・呉服商）

常陸国筑波郡沼田村飯村家文書（名主）

三河国西大平大岡家文書（大名）

陸奥国福島板倉家文書（大名）

三河国吉田大河内家文書（大名）

山梨県山梨市下井尻区有文書

山城国淀稻葉家文書（大名）

備中国松山板倉家文書（大名）

信濃国栴津久松家文書（旗本）

岡谷繁実文書（秋元家藩士・日本史家）

信濃国佐久郡下海瀬村相馬家文書（名主）

上野国安中板倉家文書（大名）

信濃国松代真田家文書（大名）

(3). 民族資料

日本実業史博物館旧蔵資料 商工用具の部

昭和7年から約10年間に蒐集された江戸～明治期の商工用具で、約5千点。

看板類200点、矢立500点、銅印600点、監札500点（何れも概数）などのほか、各種の升や秤などの度量衡具、銭箱、算盤、提灯等の生活用具がある。

5. 刊行物一覧

民族資料図版目録 文部省史料館刊

第1巻 日本編（生活用具・Ⅰ） 1967年11月

第2巻 日本編（生活用具・Ⅱ） 1968年11月

第3巻 日本編（生活用具・Ⅲ） 1970年3月

第4巻 日本編（商工関係用具・Ⅰ） 1971年3月

第5巻 日本編（生活用具・Ⅳ） 1972年3月

—— ただし、第1～3、5巻所収民族資料は、国立民族学博物館へ昭和50年度管理替 ——

史料館叢書

1. 寛文朱印留・上 1980年3月 東京大学出版会

2. 寛文朱印留・下 1980年3月 東京大学出版会

3. 津軽家御定書 1981年2月 東京大学出版会

4. 播磨屋中井家永代帳 1982年3月 東京大学出版会

5. 徳島藩職制取調書抜・上 1983年3月 東京大学出版会

6. 徳島藩職制取調書抜・下 1984年3月 東京大学出版会

7. 依田長安一代記 1985年3月 東京大学出版会

8. 真田家家中明細書 1986年3月 東京大学出版会

9. 大垣平八郎一件書留 1987年3月 東京大学出版会

10. 近江国鏡村玉尾家永代長 1988年3月 東京大学出版会

別巻1. 明治開化期の錦絵 1989年3月 東京大学出版会

史料館所蔵目録一覧 [近世資料・郷土資料の部] 1980年3月

史料の整理と管理 1988年5月 岩波書店

史料館所蔵史料目録（第1集～第54集） 第20集までは文部省史料館刊

第1集 遠州嶋村山田家文書 1952年3月

遠州桑地村加茂家文書

第2集 駿州岩本村文書 1953年3月

遠州気賀宿文書

第3集 伊勢国射和村富山家文書 1954年3月

武蔵国川越町横田家文書

小橋屋平井店文書

播磨屋中井両替店記録

第4集 阿波蜂須賀家文書 1955年3月

雲州松平家文書

第5集 甲斐国山梨郡下井尻村依田家文書 1956年3月

第6集 武州多摩郡連光寺村富沢家文書 1957年3月

武州多摩郡連光寺村富沢分家文書

第7集 出羽国村山郡山家村山口家文書 1958年6月

第8集	祭魚洞文庫旧蔵水産史料	1960年3月	第24集	信濃国佐久郡下海瀬村土屋家文書	1976年3月
第9集	出羽国村山郡山形宝幢寺文書	1962年3月	第25集	美濃国多芸郡島田村千秋家文書	1976年3月
第10集	武蔵国幡羅郡永井太田村掛川家文書 武蔵国幡羅郡下奈良村吉田家文書 祭魚洞文庫旧蔵史料	1964年3月	第26集	下総国相馬郡藤代村飯田家文書(その一)	1976年3月
第11集	日本実業史博物館旧蔵資料(一)	1965年3月	第27集	下総国相馬郡藤代村飯田家文書(その二)	1977年3月
第12集	陸奥国弘前津軽家文書	1966年3月	第28集	信濃国松代真田家文書(その一)	1978年3月
第13集	甲斐国山梨郡下井尻村井尻家文書 甲斐国山梨郡下井尻村依田家文書追補 甲斐国巨摩郡青柳村秋山家文書	1967年3月	第29集	伊豆国君沢郡内浦史料	1978年3月
第14集	摂津国大阪加嶋屋長田家文書	1968年3月	第30集	近江国蒲生郡八幡町山形西川家文書 三井高維菟集史料	1979年3月
第15集	常陸国土浦土屋家文書 土屋家家中大久保家文書 秋元家家中福井家文書	1969年3月	第31集	山城国京都久世家文書 山城国京都平松家文書	1980年3月
第16集	出羽国村山郡山形宝幢寺文書追加	1970年3月	第32集	下総国相馬郡川原代村木村家文書	1980年3月
第17集	愛知県庁文書 群馬県庁文書	1971年3月	第33集	出羽国久保田佐竹家家中小貫家文書 出羽国秋田郡大館佐竹家家中武茂家文書 出羽国秋田郡十二所佐竹家家中岡本家文書	1981年3月
第18集	出羽国秋田郡南比内大葛金山荒谷家文書	1971年3月	第34集	出羽国秋田郡南比内二井田村一関家文書	1981年3月
第19集	常陸国行方郡牛堀村須田家文書	1972年3月	第35集	美濃国山県郡東深瀬村林家文書	1982年3月
第20集	伊予国伊予郡上野村玉井家文書	1972年3月	第36集	和泉国大鳥郡上神谷豊田村小谷家文書	1982年9月
第21集	播磨国屋形旗本池田家文書 三河国深溝村八田家文書 旗本船越氏和州御用場文書 上野国東小保方村萩原家文書	1973年3月	第37集	信濃国松代真田家文書(その二)	1983年3月
第22集	伊豆国君沢郡内浦長浜村大川家文書	1973年3月	第38集	越後国頸城郡岩手村佐藤家文書(その一)	1983年10月
第23集	近江国蒲生郡鏡村玉尾家文書	1974年3月	第39集	三河国八名郡乗本村菅沼家文書	1984年3月
			第40集	信濃国松代真田家文書(その三)	1985年3月
			第41集	信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書(その一)	1985年3月
			第42集	武蔵国多摩郡蔵敷村鈴木家文書	1985年3月
			第43集	信濃国松代真田家文書(その四)	1986年3月
			第44集	信濃国安曇郡保高町村小川家文書	1986年3月
			第45集	信濃国佐久郡御影新田村柏木家文書	1987年3月

第46集	紀伊国伊都郡慈尊院中橋家文書	1988年3月
第47集	相模国大住郡土屋村原家文書(その一)	1988年3月
第48集	信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書(その二)	1989年3月
第49集	越後国頸城郡岩手村佐藤家文書(その二)	1989年3月
第50集	信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書(その三)	1990年3月
第51集	信濃国松代真田家文書(その五)	1990年3月
第52集	越後国頸城郡岩手村佐藤家文書(その三)	1991年3月
第53集	出羽国田川郡大山村大滝(直之助)家文書	1991年3月
第54集	陸奥国白河郡踏瀬村箭内家文書(その一)	1991年3月

『史料館研究紀要』(第1号~第22号) 第5号までは文部省史料館刊

第1号(1968年3月)

近世前期における領国貨幣について	榎本宗次
近世後期における一万石大名領陣屋町の経済的機能 —越後国糸魚川町の場合—	鶴岡実枝子
十九世紀初頭の町と村 —糸魚川黒只騒動の分析を中心に—	鎌田永吉
藩士知行所の構造	鈴木 壽
上州における飛脚問屋 —京屋藤岡店富田永世との関連において—	藤村潤一郎
近世史料分類の現状と基礎的課題	大野瑞男

第2号(1969年3月)

旗本家法について	鈴木 壽
「榎本弥左衛門覚書」について —その紹介と彼の商業活動よりみた近世前期の市場構造の検討—	大野瑞男

十八世紀以降の大名金融市場としての堂島 —借銀担保の米切手をめぐって—	鶴岡実枝子
天保甲州郡内騒動の諸断面	藤村潤一郎
文部省史料館所蔵生活用具の研究(一)	中村俊亀智

第3号(1970年3月)

目付考	鈴木 壽
近世における貨幣統一の一側面 —豆州内浦銭貨史料を中心に—	榎本宗次
幕府御林山における林業生産 —伊豆天城炭年季請負製炭について—	浅井潤子
甲州における飛脚問屋	藤村潤一郎
近世近江地方の魚肥流入事情 —湖東農村商人の相場帳の紹介(一)—	鶴岡実枝子
文部省史料館所蔵生活用具の研究(二)	中村俊亀智

第4号(1971年3月)

天白祠と甲州依田家	藤村潤一郎
元禄末期における幕府財政の一端 —「大坂御金蔵金銀納方御勘定帳」の紹介を兼ねて—	大野瑞男
河原田盛美・史料ノート —大久保政権の「社会的支柱」に寄せて—	鎌田永吉
文部省史料館所蔵生活用具の研究(三)	中村俊亀智

第5号(1972年3月)

近世初期銀貨考	榎本宗次
---------	------

—リチャード・コックス日記を中心に—

- 近世米穀取引市場としての大津 …………… 鶴岡実枝子
 付、湖東農村商人の相場帳の紹介(二)
 江戸六組飛脚屋仲間について …………… 藤村潤一郎
 幕末期の質屋史料 …………… 原島陽一
 —出雲国大原郡大東町大坂屋「質留牒」—
 幕府勘定所勝手方記録の体系 …………… 大野瑞男
 —幕府財政史料の類型論序説(その一)—
 鋤の諸形態 …………… 中村俊亀智
 —や、用具論的に—

第6号(1973年3月)

- 会津藩前期の財政構造 …………… 鶴岡実枝子
 —半石半永制の再検討—
 幕府勘定所勝手方記録の体系 …………… 大野瑞男
 —幕府財政史料の類型論序説(その二)—
 江戸六組飛脚屋仲間について(続稿) …………… 藤村潤一郎
 潰百姓について …………… 鈴木壽
 踏み鋤の二系列 …………… 中村俊亀智
 —や、用具論的に—

第7号(1974年3月)

- 通日雇について …………… 藤村潤一郎
 幕府勘定所勝手方記録の体系 …………… 大野瑞男
 —幕府財政史料の類型論序説(その三)—
 編み袋の諸形態、用具論的に …………… 中村俊亀智

第8号(1975年9月)

- 「奈良茂家」考 …………… 鶴岡実枝子
 福岡日雇支配・大坂通日雇万屋喜平次について …………… 藤村潤一郎
 背負梯子の諸形態 …………… 中村俊亀智

第9号(1977年3月)

- 近世史料の分類〔遺稿〕 …………… 鎌田永吉
 —第十八回近世史料取扱講習会講義草稿—
 金沢藩の通日雇について …………… 藤村潤一郎
 浅草米蔵について …………… 大野瑞男
 —「浅草米蔵旧例」の紹介—
 鯖江領における村落行政の一斑 …………… 浅井潤子
 —大庄屋勤役形態をめぐって—
 明治十年代における米沢の貸座敷営業史料 …………… 原島陽一
 近世中期～幕末維新期における農民層の政治・社会・経済認識の
 展開に関する一考察(一) …………… 大藤修
 —羽州村山郡谷地の場合—

第10号(1978年3月)

- 甲州道中における商品流通の展開と運輸機構 …………… 安藤正人
 —甲州郡内地方を中心に—
 常陸国における太閤検地の実態 …………… 山田哲好
 享保改革期の米価政策からみた江戸の位置 …………… 鶴岡実枝子
 —米会所存廢の顛末—
 翻刻 寛政三年五月序
 安井宗二(大伴大江丸)「きのふの我」 …………… 藤村潤一郎

近世史料の体系化に関する基礎的研究

第11号 (1979年3月)

- 徳島藩裁許所公事落着帳・裁許御目付扣帳の基礎的研究 …… 安 澤 秀 一
 近世中期～幕末維新期の農民層の政治・社会・経済認識 (二)
 — 羽州村山郡谷地の場合 — …………… 大 藤 修
 京飛脚仲間について 付、京飛脚関係史料 …………… 藤 村 潤一郎

第12号 (1980年9月)

- 宇和島藩切支丹類族改・宗門人別改・公儀え指上人数改の基礎的研究
 …………… 安 澤 秀 一
 近世武家屋敷駈込慣行 …………… 笠 谷 和比古
 近世中期～幕末維新期の農民層の政治・社会・経済認識 (三)
 — 羽州村山郡谷地の場合 — …………… 大 藤 修
 京魚荷飛脚について …………… 藤 村 潤一郎

第13号 (1981年9月)

- 領知判物・朱印状の古文書学的研究 …………… 大 野 瑞 男
 — 寛文印知の政治史的意義 (一) —
 筑後蔵空米切手考 …………… 鶴 岡 実枝子
 — 西国大名経済と堂島 —
 近世甲府の都市構造と役負担 …………… 安 藤 正 人
 信州上田原町問屋日記にみえる定飛脚について …………… 藤 村 潤一郎

第14号 (1982年9月)

- 大名留守居組合における互通文書の諸類型 …………… 笠 谷 和比古

- 近世史料所在情報体系化試論 …………… 山 田 哲 好
 冊子型史料の形態表示について …………… 原 島 陽 一
 関東農村の荒廃と尊徳仕法 …………… 大 藤 修
 — 谷田部藩仕法を事例に —
 岡田良一郎言論関係文書の紹介 (一) …………… 大 藤 修
 翻刻・寛政期森傳衛門尹祥編「昏札札」 (一) …………… 藤 村 潤一郎
 — 解題編 —
 故榎本宗次氏の人と業績

第15号 (1983年9月)

- ブラック・アフリカ諸国における文書館とアーキヴィスト養成課程
 …………… 安 澤 秀 一
 江戸上下飛脚屋と木原店 …………… 藤 村 潤一郎
 天明期江戸両替屋役金一件 …………… 鶴 岡 実枝子
 岡田良一郎言論関係文書の紹介 (二) …………… 大 藤 修

第16号 (1984年9月)

- 史料保存利用施設の国際環境 …………… 安 澤 秀 一
 — 史料館=文書館学序論のための覚書 —
 近世地方文書用字考 …………… 浅 井 潤 子
 幕末維新时期村落女性のライフ・コースの研究 (一) …………… 森 安 彦
 — 江戸周辺、武州荏原郡太子堂村の事例 —
 翻刻・飛脚関係摺物史料 (一) …………… 藤 村 潤一郎

第17号 (1985年9月)

- 近世史料の整理と目録編成の理論と技法 …………… 大 藤 修

—信州松代八田家（商家）文書の整理と目録編成を事例に—

<1984年在外研究報告>

史料整理と検索手段作成の理論と技法 安藤正人
—欧米文書館の経験と現状に学ぶ—

幕末維新时期村落女性のライフ・コースの研究（二） 森安彦
—江戸周辺，武州荏原郡太子堂村の事例—

翻刻・飛脚関係摺物史料（二） 藤村潤一郎

第18号（1986年9月）

主君「押込」慣行の形成過程（一） 笠谷和比古
—古田騒動と伊達騒動を中心に—

翻刻「懸令雑書」 藤村潤一郎
真田家役職一覧 原島陽一

第19号（1988年3月）

<近世史料論1>

「御用留」の性格と内容（一） 森安彦
—武州荏原郡上野毛村「御用留」の検討—

主君「押込」慣行の形成過程（二） 笠谷和比古
<翻刻・三題> 藤村潤一郎

「延宝・以来御飛脚筋其他手扣」
原長右衛門「書法録」他 —農家文書の書札—
「寛保元・二年 手板組中日記」

第20号（1989年3月）

佐賀城下窰帳の研究 松本四郎

近世農民の生業と生活 渡邊尚志

—信濃国諏訪郡瀬沢村坂本家の場合—

断截史料の復原補修 原島陽一
—高島藩宗門帳について—

第21号（1990年3月）

近世淡路の棒役負担について 高橋啓
農民的土地所持と村落共同体 渡邊尚志

「御用留」の性格と内容（二） 森安彦
—武州荏原郡上野毛村「御用留」の検討—

アーキビストの教育と養成をめぐる新しい波 訳・解説 安藤正人
—ICA国際シンポジウムの諸報告—

第22号（1991年3月）

「御用留」の性格と内容（三） 森安彦
—武州荏原郡上野毛村「御用留」の検討—

近世文書論序説（上） 大藤修
—近世文書の特質とその歴史的背景についての素描—

史料館における史料保存活動 山田哲好・廣瀬睦

『史料館報』（第1号～第55号）

但し各号所載の新収史料紹介・展示会・講習会・案内・事業報告（彙報）・
歴史史料保存利用機関連絡協議会（史料協）大会参加記は省略した。

創刊号（1965年3月）

創刊の辞 史料館長 吉里邦夫

史料館の当面する問題

民具収蔵庫の現況と問題点

湿度管制

近世史料の整理について - 公共図書館研究集会所(整理部門)に出講して-
所蔵史料一覧概表(1)

第2号(1966年3月)

この一年をふりかえって

史料の複写・貸出について

地方行政史料の整理について - 全国公共図書館研究集会に参加して-

民俗資料の保存管理<付票> 中村俊亀智
所蔵史料一覧概表(2)

第3号(1966年9月)

就任のことば 館長 小和田 武 紀

近世城下町の成立と展開 - 川越を素材に - 大野 瑞 男

家族史の諸問題 大 給 近 達

「津軽家文書」の整理を終えて 浅 井 潤 子

史料整理と<参考資料>の収集

民俗資料の保存管理(2) - <収蔵原簿>の形式 - 中 村 俊 亀 智

所蔵史料一覧概表(3)

所蔵史料の現況(1) - 収集経過とその問題点 -

日本の文書館制度について

第4号(1967年3月)

史料館と研究活動の方向 館長 小和田 武 紀

第12回近世史料取扱講習会特集

総括と反省 原 島 陽 一

研究討議について

I 近世史料の整理・分類 大 野 瑞 男

II 近世史料の管理 原 島 陽 一
補修 浅 井 潤 子

III 所在調査法 鎌 田 永 吉
民俗調査法 大 給 近 達

民俗資料の保存管理(3) - 調査票について - 中 村 俊 亀 智

二つの農家家法について 原 島 陽 一

商家年中行事の構成 中 村 俊 亀 智
所蔵史料の現況(2)

第5号(1967年8月)

地方史の研究について 鈴 木 寿

甲州の村方文書について 藤 村 潤 一 郎

近世後期における一万石大名陣屋町の経済的機能 鶴 岡 実 枝 子

村方文書の整理と分類 藤 村 潤 一 郎

民俗資料の保存管理(4) 中 村 俊 亀 智

鈴木家文書の船乗下人 榎 本 宗 次

代官手代の不正調査 原 島 陽 一

近世史料の所在調査 - 実績と今後の課題 -

所蔵史料の現況(3)

第6号(1968年3月)

史料館について思うこと 石 井 良 助

天領の研究について	鈴木 寿
切支丹類族について	榎本 宗次
維新政治史関係史料ノート	鎌田 永吉
近世史料の整理について	藤村 潤一郎
民俗資料の保存管理 -呼称について-	中村 俊亀智
津軽藩の国替騒ぎ	浅井 潤子
民具の形態学 -せなかあて-	中村 俊亀智
第13回近世史料担当者講習会 -総括と反省-	大野 瑞男
史料集と索引	原 島 陽一

第7号 (1968年8月)

一つの提案	大久保 利謙
維新余聞	鈴木 寿
古銭と寛永銭との切替について	榎本 宗次
農村史料よりみた代官江川氏	大野 瑞男
「トタン」考	藤村 潤一郎
加嶋屋長田家文書の整理を終えて	鶴岡 実枝子
民俗資料の保存管理(6) -測定について-	中村 俊亀智
民具の形態学・あみかご	中村 俊亀智
検見役人の収賄	浅井 潤子
所蔵史料の現況(4)	
「史料館の内部組織等に関する規程」の制定について	

第8号 (1969年3月)

古文書館のことも	宝 月 圭 吾
天誅組罷り通る	鈴木 寿

持寄旦那寺について	浅井 潤子
豆州内浦史料における京銭	榎本 宗次
公銀貸付と大坂「融通組合」	鶴岡 実枝子
民俗資料の保存管理(7) -「用途」の記載について-	中村 俊亀智
川柳と飛脚問屋十七屋	藤村 潤一郎
近世史料雑感	大野 瑞男
生活用具の形態学・み(箕)	中村 俊亀智
Kさんへの手紙 -第14回講習会のあとで-	原 島 陽一

第9号 (1969年8月)

福井県古文書・記録の調査	小 葉 田 淳
『所蔵史料日録』の作成を終えて	鎌田 永吉
民俗資料の保存管理(8) -形態の記録について-	中村 俊亀智
生活用具の形態学(4) うけ(筥)	中村 俊亀智
壬申戸籍の保存・利用問題	
東京都公文書館	
世田谷区立郷土資料館	
史料館所在沿革(1)	
歴史と文学と	鈴木 寿
戸越の今昔	浅井 潤子
明治10年代山梨県経済動向について一答申	藤村 潤一郎

第10号 (1970年3月)

資料保存・利用問題の展開と文部省史料館	木 村 礎
大名家文書の所在調査 -報告 その1-	第一史料室
民俗資料の保存管理・製作について	中村 俊亀智

財団法人三井文庫

埼玉県立図書館文書館

歴史資料保存法の制定についての学会会議の報告

史料館の所在地沿革(2)

京都市拾軒組と江州布飛脚 藤村 潤一郎

生活用具の形態学(5) バラ 中村 俊亀智

第11号 (1970年3月)

文部省史料館の役割 豊田 武

マイクロフィルムの整理と管理

マイクロフィルムの収集と管理について 藤村 潤一郎

資料-諸機関におけるマイクロフィルム管理の現況- 第一史料室

宝幢寺文書の収集と整理

-近世寺院文書の収集と整理の一例- 大野 瑞 男

商家の文書(1) 鶴岡 実枝子

生活用具の形態学(6) かさ(笠) 中村 俊亀智

山口県文書館の当面する二、三の問題 広田 暢 久

史料館の所在地沿革(3)

文部省史料館発行定期刊行物の配布方法について

第12号 (1970年12月)

郷土史料館利用の経験 古 島 敏 雄

文部省史料館における近世史料目録の調査について 鈴木 寿

大名家文書の所在調査 -報告その2- 第一史料室

「近世古文書学」問題点の素描 榎 本 宗 次

農村文書(1) -村方文書の性格- 浅 井 潤 子

生活用具の形態学(7) 中 村 俊 亀 智

北海道行政資料室の現状と当面の問題点 北海道行政資料室

仮標題 久 保 田 広 司

史料収集の中で 小 林 利 久

史料館の所在地沿革(4)

文部省史料館所蔵史料の撮影・複写心得

第13号 (1971年3月)

過疎地帯の史料 -九州日田地方の調査から- 杉 本 勲

県庁文書目録化に関する覚え書 原 島 陽 一

中間機構的史料について 鈴 木 寿

商家の文書(2) -商業帳簿2 (仕入帳簿)- 鶴 岡 実 枝 子

俗流管理論 (上) 中 村 俊 亀 智

郷土資料室の在り方 長 光 徳 和

沖縄県立史料館 (仮称) 設立の動き 名 嘉 正 八 郎

【北上市史】編集・刊行上の特徴 斉 藤 尚 巳

昭和46年度新規事業について

第14号 (1971年7月)

元禄の道程書上 児 玉 幸 多

西日本地区「近世史料担当職員講習会」を終えて

近世鉾山文書の整理 -荒谷家文書目録の作成を終えて- 大 野 瑞 男

府県庁文書の目録化と分類をめぐって 鈴 江 英 一

史料館所蔵史料目録第17集刊行に寄せて 大 村 進

農村文書(2) -村明細帳- 藤 村 潤 一 郎

俗流管理論 (中) 中 村 俊 亀 智

京都府立総合資料館の現状と当面の問題

古文書の活字化	猪 井 達 雄
長崎県の郷土資料	石 田 保

第15号 (1971年12月)

古文書の保存科学	岩 崎 友 吉
県庁文書の分類について	原 島 陽 一
俗流管理論(下)	中 村 俊 亀 智
市町村公文書の所在調査	
- 「宮崎県行政資料所在調査目録」 -	東 別 府 盛 雄
財団法人福島県文化センター歴史資料館	菅 田 宏
「地方史静岡」の刊行	朝 比 奈 豪
地方における研究活動の組織化	
- 福井県郷土誌懇談会の場合 -	井 口 昌 保
大名家文書の所在調査 - 報告その3 -	第 一 史 料 室
近世史料目録所在調査の終了について	

第16号 (1972年3月)

私擬「歴史資料保存法」案と提唱	林 英 夫
福井県下の古文書所在調査	舟 沢 茂 樹
大量資料段階の資料館・博物館建築	
- 最近の二、三の傾向について -	中 村 俊 亀 智
茨城県歴史館建設の現況	川 上 宏 昭
多久市立図書館管理の歴史資料の現状と問題	細 川 章
古文書類の蒐集	桜 木 保
文部省史料館発行「所蔵史料目録」(第1集～第20集)・「民俗	

資料図版目録 内容紹介

第17号 (1972年11月)

文部省史料館の改組について

金石文の調査	金 山 正 好
「須田家文書」の整理を終えて	藤 村 潤 一 郎
複雑な村方文書整理	浅 井 潤 子
地方史(誌)編集刊行上の問題	伊 藤 忠 芳
史料収集から	花 田 勝 彦
史料館改組関係法令	

第18号 (1973年3月)

マイクロフィルム化史料の管理と利用	原 島 陽 一
農村文書(3) 年貢割付と皆済目録	大 野 瑞 男
博物館における文書館としての役割	能 嶋 紘 一
行政史料について	渋谷 哲 成
第18回近世史料取扱講習会に参加して	弘 格
近世史料目録の調査	

第19号 (1973年10月)

史料の保存と研究	井 上 勝 生
図書館併置の文書館的施設について	三 浦 俊 明
松前町における町史編纂について	榎 森 進
「相良家文書目録」の作成を終えて	上 田 満 子
続維新政治史関係史料ノート	鎌 田 永 吉

第20号 (1974年3月)

史料保存問題と研究者 -井上勝生論文にふれて- 色川大吉
大川家の樟脳製造 榎本宗次

第21号 (1974年10月)

明治期の学校日誌 -「井上・色川論争」に寄せつつ- 有泉貞夫
「藤沢市文書館」の現状と課題 高野修
近江湖東農村史料からみた名目金の事例-鏡村庄屋日記より-
..... 鶴岡実枝子
旗本家文書の所在調査について 第一史料室

第22号 (1975年3月)

「歴史資料保存利用機関連絡協議会」の組織化と今後の問題
..... 佐久間好雄
国立史料館の史料所在調査に参加して -その反省と問題点-
..... 吉永昭
所在調査報告=三州設楽郡出沢村滝川家文書・丹後地方農村文書
近世史料目録の調査と収集
所在調査=旗本家文書(その1)

第23号 (1975年12月)

古文書と私 相原隆三
「村」村方騒動 -信州佐久郡下海瀬村- 大野瑞男
史料所在調査報告=真田家文書・出羽国平鹿郡角間川本郷家文書
史料のマイクロ写真化と撮影基準

第24号 (1976年3月)

山形県史編さんと地域史研究 梅津保一
「飯田家文書」の整理を終えて 藤村潤一郎
近世史料目録の調査・収集と今後の課題 山田哲好
歴史資料保存利用機関連絡協議会創立大会に出席して 鎌田永吉

第25号 (1976年10月)

新築工事に伴う史料の閲覧停止について
【東京市史稿】の編纂について 菊地昭
農村文化と茶道 -「千秋家文書」の整理を終えて- 浅井潤子

第26号 (1977年3月)

東寺百合文書の整理について 上島有
所在調査報告=山形県大石田町高桑家文書ほか・安房国荒川村高
梨家文書
史料紹介=京都「諸国国々飛脚便宜鑑」について 藤村潤一郎

第27号 (1977年10月)

農書校注の経験 古島敏雄
史料と蔵書印のこと 原島陽一
銀座史料「諸国灰吹銀寄」について 榎本宗次
年貢皆済目録の成立 大野瑞男
史料館資料利用規程

第28号 (1978年3月)

大阪編年史刊行について 藤本篤

所在調査報告＝茨城県郡珂郡大宮町四倉家文書ほか・静岡県浜名
郡新居町戸長役場文書ほか
寛永期の「吉利支丹起請文」からみた京都六角町の住民構成
..... 鶴岡実枝子

第29号 (1978年9月)

九州の石炭礦業史料について 秀村選三
「真田家文書」(その1)の整理を終って 原島陽一
史料とラベル 原島陽一
近世史料目録の調査・収集報告

第30号 (1979年3月)

近世史料体系化への途 中井信彦
外国文書館見て歩き -昭和53年度在外研究報告- 大野瑞男
所在調査報告＝山梨県南巨摩郡鯉沢町原田家文書ほか
「豆州内浦史料目録」の作成を終えて 大藤修
地方史関係雑誌の収集について 図書委員会

第31号 (1979年9月)

漁村史料の伝来について 網野善彦
史料館叢書の発刊 大野瑞男
所在調査報告＝兵庫県姫路市・姫路酒井家文書
古い蔵書印とラベル 原島陽一
寛文期の算用帖からみた江戸の「近江店」 鶴岡実枝子

第32号 (1980年3月)

村入用帳について 神崎彰利
一つの宝篋印塔 -「木村家文書」の整理終えて- 藤村潤一郎
所在調査報告＝下野国河内郡町谷村渡辺家文書・美濃国方県郡古
市場村国島家文書ほか
「史料館所蔵目録一覧」の刊行
史料館蔵史料目録(第21集～第32集)内容紹介

第33号 (1980年9月)

フランス・オランダの文書館 加藤栄一
【寛文朱印留】の翻刻と校訂 大野瑞男
史料の原形保存 原島陽一
「平松家文書目録」の作成を終えて 笠谷和比古

第34号 (1981年3月)

瀬戸内海歴史民俗資料館とその活動 徳山久夫
二つの国際会議に参加して 安澤秀一
【津軽家御定書】の翻刻 浅井潤子
史料の原形保存(続) 原島陽一
史料所在調査報告＝上野国利根郡門前区有文書・上総国山辺郡道
庭村石橋家文書ほか

第35号 (1981年9月)

市史編さんと史料保存 本多寅太郎
第9回文書館国際会議での諸報告 安澤秀一
維新と一豪農の「家」 -出羽国秋田郡二井田村一関家の「家訓」
の検討- 大藤修

整理の実務 - 史料の登録- 原 島 陽 一

第36号 (1982年 3月)

史料と保存科学 - 防殺虫をめぐる- 岩 崎 友 吉

秋田藩家臣文書の整理 大 野 瑞 男

【播磨屋中井家永代帳】の刊行 鶴 岡 実 枝 子

史料所在調査報告=陸奥国閉伊郡穴沢村工藤家文書・陸奥国白川

郡諸家文書

第37号 (1982年 9月)

地域住民の手で郷土の史料館が建つまで

- 刈谷市野田史料館の場合- 加 藤 鉄 衛

保存管理国際会議ケンブリッジ1980 安 澤 秀 一

百姓身上り出入一件 - 「林家文書」の整理を終えて- 浅 井 潤 子

追悼 故榎本宗次史料館長

近世史料所在情報の体系化に向けて 山 田 哲 好

第38号 (1983年 3月)

近代行政文書の整理と文書館 水 野 保

寛文八年の香燵帳 - 小谷家文書の整理を終えて- 安 澤 秀 一

【徳島藩職制取調書抜】上 の刊行

史料館の役割と史料保存体制

史料所在調査報告=安芸国山県郡都志見村香川家文書・三河国八

名郡乗本村菅沼家文書ほか

第39号 (1983年 9月)

善徳寺文書目録を作成して 高 澤 裕 一

史料の装備と配架 原 島 陽 一

ユネスコ本部文書館専門官エヴァンズ博士を案内して 安 澤 秀 一

近世史料の名称付与の作業について

- 「真田家文書」の整理を終えて- 笠 谷 和 比 古

第40号 (1984年 3月)

歴史資料の保存科学 江 本 義 理

史料の装備と配架(続) 原 島 陽 一

史料所在調査報告=和泉国日根郡熊取谷五門村中家文書

文書目録の編成に関する一、二の問題 安 藤 正 人

第41号 (1984年 9月)

史料保存と歴史資料館 梅 津 保 一

特殊形態の資料の取扱い 原 島 陽 一

奥三河農村における年貢免状について 鶴 岡 実 枝 子

【徳島藩職制取調書抜】(上・下巻)の索引作成 広 瀬 睦

史料所在調査報告=京都冷泉町文書

史料協・関東部会設立準備会参加記

第42号 (1985年 3月)

近代史料における私文書について 海 野 福 寿

史料所在調査報告=近江国高島郡在原区有文書ほか・信濃国埴科

郡下戸倉村坂井家文書

【依田長安一代記】の刊行

第10回史料館国際会議ボン1984と研修セミナー 安 澤 秀 一

第43号 (1985年9月)
 古文書の調査とアーキヴィスト …………… 北 原 進
 史料受入れ記録の保存 …………… 原 島 陽 一
 史料形態がもつ意義 …………… 原 島 陽 一
 冊子型史料の諸形態と表記用語 …………… 大 藤 修
 「鈴木家文書目録」の作成を終えて …………… 藤 村 潤一郎
 史料館の役割と史料保存利用体制 - 中間報告 -

第44号 (1986年3月)
 文部省科学研究補助金による史料所在情報の収集にあたって
 アジア・太平洋地域アーキヴィスト養成センターの設立をめぐる
 …………… 千 代 正 明
 史料所在調査報告=越中国射水郡高岡横田岡岡本家文書・信濃国
 埴科郡下戸倉村坂井家文書
 [全史料協の要請書]

第45号 (1986年9月)
 市町村史編さんに参加して …………… 林 玲 子
 宗門送手形の書式と「案書」
 - 所蔵史料目録第44集の整理を終えて - …………… 浅 井 潤 子
 ICA・JSAI 第1回文書館振興国際会議に参加して …………… 安 澤 秀 一
 【真田家家中明細書】の刊行
 近江国草津宿と飛脚屋 …………… 藤 村 潤一郎

第46号 (1987年3月)
 県史編纂と県立文書館 …………… 阿 部 昭

農民史料の名称付与について …………… 笠 谷 和比古
 史料所在調査報告=信濃国安曇郡穂高町村小川家文書・長門国阿
 武郡萩城下呉服町菊屋文書
 【大塩平八郎一件書留】の刊行

第47号 (1987年9月)
 近代行政文書復元の一事例と文書資料の原形記録について … 田 中 康 雄
 新田開発人の特権の消長
 - 所蔵史料目録第45集の刊行によせて - …………… 森 安 彦
 史料所在調査報告=長門国阿武郡萩城下呉服町菊屋文書・陸奥国
 磐井郡楊生村阿部家文書
 補修の記録化 …………… 原 島 陽 一
 「文書館学」研修会開催について

第48号 (1988年3月)
 公文書館法の成立によせて
 - 岩上二郎議員の主旨説明を中心として - …………… 所 理 喜 夫
 相州土屋村原家と定飛脚問屋 …………… 藤 村 潤一郎
 ロンドン大学の文書館学大学院に学んで …………… 安 藤 正 人
 62年度予算の追加配分について
 【近江国鏡村玉尾家永代帳】の刊行

第49号 (1988年9月)
 公文書館法と地方自治体における文書管理・史料保存 …………… 佐 藤 勝 巳
 文部省科学研究費補助金による研究成果報告
 旧家の家伝について - 慈尊院中橋家文書の整理を終えて - … 鶴 岡 実 枝 子

史料の収集と受入 原 島 陽 一
『史料の整理と管理』の刊行

第50号 (1989年3月)

「移転」問題と「史料館」の現況

近代行政文書の課題 中 谷 弼

第11回国際文書館会議と第1回国際アーキビスト養成コロキウム

に参加して 安 藤 正 人

史料所在調査報告＝遠江国引佐郡伊目村白柳家・同郡五日市場村
区有文書

第51号 (1989年9月)

岡山藩人物情報のコンピュータ検索について 中 野 美 智 子

「文字記録史料と電算機応用に関する課題と解決」研究集会参加記

..... 山 田 哲 好

史料館叢書 別巻1『明治開化期の錦絵』の刊行

第52号 (1990年3月)

御先祖様の呼び起し 佐 藤 友 之

商家経営における収集情報の記録化 安 澤 秀 一

真田家文書目録(その5)の整理を終えて 原 島 陽 一

史料所在調査報告＝出羽国秋田郡久保田町那波家文書・信濃国軽
井沢宿本陣問屋佐藤家文書

第53号 (1990年9月)

「房絵史料調査会」の活動について 立 野 晃

21世紀の史料保存をになうアーキビストの育成をめざして ... 研 修 会 委 員 会
文部省科学研究費補助金による研究成果報告

信濃国松代八田家文書の整理を担当して 大 藤 修

大型絵図の複製について 山 田 哲 好

歴史学関係諸学会懇談会(歴史)第5回シンポジウム「学術情報

問題を考える」に参加して 大 友 一 雄

第54号 (1991年3月)

裁判記録の保存と利用 竹 澤 哲 夫

文部省科学研究費補助金の交付と第1回研究会開催報告

大滝(直之助)家文書の整理を終えて 浅 井 潤 子

中国の檔案館訪問記 丑 木 幸 男

史料所在調査報告＝出羽国秋田郡久保田町那波家文書・武蔵国埼

玉郡羽生領桑崎村小沢家文書

第55号 (1991年9月)

史料館の四十年と今後の課題

史料館の事業内容紹介

史料館に期待すること 三 浦 俊 明

史料館に期待すること 大 西 愛

史料管理学研修会参加記 白 川 満 純

史料管理学研修会参加記 芦 田 伸 一

6. 史料展示会一覧

回数	開催年月日	展 示 内 容
1	1949. 11. 19	収蔵史料公開披露展
2	1951. 11. 11～12	近世商業金融史料・近世商業古器具類・近世鉱山史料・近世における領国統治に関する史料
3	1952. 11. 16～17	近世農村租税史料・三井文庫所蔵日本古版地図
4	1953. 11. 8～7	近世農業経営史料（甲州山梨郡下井尻村依田家文書）・三井文庫所蔵江戸古版地図
5	1954. 11. 7～8	近世交通運輸史料
6	1955. 11. 6～7	豆州蕪山代官江川家文書
7	1956. 11. 11～12	近世の戸口調査に関する史料
8	1957. 11. 10～11	江戸時代の金融貸借史料
9	1958. 11. 9～10	近世の知行制に関する史料
10	1959. 11. 8～9	近世水産図絵
11	1960. 11. 5～6	近世産業史料
12	1961. 11. 11～12	近世の服飾に関する史料
13	1963. 5. 9～10	内外の民具（新館落成記念）
14	1964. 11. 9～10	国絵図・郷帳
15	1965. 11. 7～8	近世寺院史料—出羽国山形宝幢寺文書を中心に—
16	1966. 10. 17～18	府藩県時代史料
17	1967. 11. 12～14	東山梨の農村史料—甲斐国山梨郡下井尻村井尻家文書を中心に—
18	1968. 11. 10～12	摂津国大阪加嶋屋長田家文書
19	1969. 11. 9～10	譜代大名諸家文書
20	1970. 11. 8～9	近世鉱山史料—出羽国秋田郡南比内大葛金山荒谷家文書を中心に—
21	1971. 10. 24～25	愛知・群馬両県庁文書
22	1980. 10. 20～21	近世農漁村生活史料

以上のほか、番外として1971年4月7日法制史学会大会に協力「近世法制史料」を展示。

VI
参
考
资
料

1 学術史料蒐集の要項（一九四七年度）

学術史料蒐集の要項

一、学術史料蒐集の主旨

戦時中及び戦後の政治的・社会的・経済的変革にともない、学術史料としての古文書・記録類の散佚、煙滅は洵に夥しいものがあるに拘らず、これらの文書の内、国宝保存法、重要美術品認定に関する法律によって保存されたものは極めて少数であつて、大部分の史料は何等の保存策も講ぜられず、従つて自由な売買処分が行はれてゐる実情である。この現状に対し、応急適切な処置をとることに怠慢であるならば、我国の歴史研究の上に重大な障礙を招き、悔いを千載に残すことは必至である。

ここに於て研究者各位の積極的な協力に俟つて最も危殆の多い近世並びに明治時代の庶民史料を全国的に蒐集し、之を整理・保存すると共に更にこの蒐集史料を公開し、汎く研究者の利用に供する目的の国立史料館（仮称）の設立を期するものである。

二、蒐集の方法

文部省内に二十名以内の学術史料調査員をおき、史料蒐集の具体的方策を協議実行に移すとともに、地方組織として地方学術史料調査員を各都道府県に若干名をおき、学術史料調査会議において決定した大綱に基き、全国的に史料の蒐集を行う。この蒐集事業を緊急に実施することによつて、煙滅に瀕した学術史料の保存対策を強力に講じて行くものである。

三、蒐集の対象

- (イ) 地方の旧家、旧役人、資産家（地主・山主・商家）、事業家（船主・網元・問屋・運送業者等）その他の家に伝存する文書・記録類。
- (ロ) 講・組・株仲間等に残存するもの。
- (ハ) 町村役場等に残存するもの。

(ニ) 寺院神社等に残存するもの。

(ホ) 其の他に残存するもの。

四、蒐集内容

山農漁村の経済・社会・自治・戸口及び生産・生産技術等に関するもの。

山農漁村の生活、行事、習慣及び村落組織に関するもの。

土地・山林・租税・課役等に関するもの。

都市の構成・市民生活等に関するもの。

商家・商取引・商品・物価及び市場に関するもの。

工場・工業技術及び一般労働者（奉公人・職人）給与等に関するもの。

一般の政治、行・財政、法制、経済、通貨、貸借等に関するもの。

交通・運輸・通信等に関するもの。

建築・土木・造船等に関するもの。

文化・教育・宗教（寺社）信仰等に関するもの。

一般の生活其の他に關するもの。

五、蒐集の条件

イ、所蔵者より無償供与を受けて当方より感謝状を出すもの。

ロ、有償を以て買上げるもの（買上げについては次の二種とする）。

A 謝金程度を以てする買上げ（評価価格の半額以下）。

B 評価委員会の適正評価による買上げ（評価基準は別紙に依る）。

保管については中央保存を原則とする。但し特に事情あるものについては地方保存の途を講究すること。

注意事項

蒐集史料は有償、無償に拘らず、差当り文部省の責任に於いて整理保存すること。

史料蒐集の条件として最も好ましいのは、イ項であるが、所蔵者の事情又は希望によつては事項A、次ぎはBの順位を以つて交渉されたいこと。（但し此

の条件は公表を差控え、取扱者の意中に留めおかれたいこと)

史料蒐集についての問い合わせは、「東京都千代田区霞ヶ関文部省科学教育局人文科学研究課」宛、又学術史料の送付先は「東京都文京区上富士前町東洋文庫内文部省分室」宛送付のこと。

学術史料調査委員会委員名簿

小野 武夫	早大講師	北多摩郡小金井町二七七三
渡辺 世祐	明大教授	目黒区下馬二ノ六七
野村兼太郎	慶応教授	神奈川県藤沢市大鋸御所谷
古島 敏雄	東大助教授	文京区弥生町東大農学部研究室
所 三男	徳川林政史研究所員	新宿区目白町四ノ四一
宝月 圭吾	東大助教授	中野区昭利通り三ノ五三 青柳方
伊木 壽一	明大教授	港区高輪南町二七
鳥羽 正雄	林友会囑託	文京区駒込上富士前町五
森末 義彰	史料編纂所員	浦和市上木崎一一八
辻 善之助		新宿区戸塚町四の七八三
岩井 大惣	東洋文庫長	文京区駒込上富士前町一四七

2 史料館設置に関する請願及び趣意書(一九四九年三月)

請 願

戦後の社会的経済的諸変革によって、近世並に明治時代の庶民生活に関する基礎的史料が、別紙請願趣意書に記されているように、日々散佚湮滅しつつある現情にかんがみ保存及公開機関として、国立史料館のとき施設を急速に設置し、これが対策をたてるよう請願します。

昭和二十四年 月 日

衆議院議長 幣原喜重郎殿

I. Morgan

紹介者 森戸辰男 稲葉脩 渡辺鏡造

Dr. Loomis

船田享一 水谷昇 原彪 植原悦二郎

史料館設置に関する請願趣意

日本の歴史資料は今正に空前の危機に臨んでいます。

我々の祖先が残した文書・記録は、その古さにおいても量においても、東洋はもちろん欧米諸国にもその比をみないところであります。これは、永い保存に堪える和紙に墨筆を以て記録されたことが最大の理由ではありますが、こうした文書・記録を丹念に保存することを義務と考え、また家の誇りとした我々の祖先の心掛けに負うところが少くありません。そこで名門・旧家はもとより、その家系・由緒に深い関心をもつほどの家には、公私に互った各種の文書・記録が多量に保存されてきました。

しかし歴史資料としてよく整理され、また資料に利用されてきたものはその一小部分で、江戸時代以降の民間記録類に至っては、一部の郷土史家以外には殆んど顧られません。これは従来の歴史がいわゆる「支配者の歴史」であって、皇室、国体、政治、軍事乃至文化、思想方面の研究に重点を置くことを余儀なくされた結果、我々の生活に最も関係の深い産業経済社会等の部門がおろそかになり、なかんづく近世の庶民生活などについての研究はなきに等しい実情でした。従って今後の歴史研究者に課せられた責任は、今まで多く顧られなかった史料、殊に民間記録に就いて実証的な研究を進め、単に従来の歴史の空欠を補填するだけでなく、その科学的研究によって血の通った「日本の歴史」を新に編纂することにあります。ここに最も不幸な事実は、肝心な根本史料であるところの古文書記録類、その量と質とを世界に誇った歴史資料の多くが、現在佚失に瀕していることでもあります。

民間に保存された史料は、前述の事情と、一つは読解の困難さの故に、その多

くが未調査、未整理の状態です。所蔵されましたため、戦時中にはとかく不用物視されまして廃品回収の対象に上り、従って莫大な量の記録類が眠っている資源として動員されました。更に終戦後の混乱を迎えましてからは、経済事情の激しい変動につれまして、家重代の什器宝物類の換貨処分を余儀なくされる人々が急増いたしました。この階層に属する人々の多くは古文書記録の所蔵者でありましたが、什宝までを手放さなければならぬ場合に、文書類だけが処分せられずにある例は殆どなく、既に原蔵者を離れてその所在を失いましたもの及び全く潰滅いたしました文書類の数量は戦時中のそれを上廻っていると推定されます。

美術骨董品の類は売却処分をうけても、結果に於きましては単に保存の場所を変えたにすぎぬ場合が多く、甚しくその原形を損じますようなことは稀であります。前述いたしました文書記録になりますと、商品としての価値が乏しいという理由もありまして、一旦所蔵者の手を離れましたが最後、その多くは文字通り「反故」となりまして、主に複製紙原料となつて原形を失つてしまうのであります。こうしてその古文書の内蔵いたします史実に接する機会はついに失われまして、これによつて生じました歴史の空白を充たすことは永久に望み得ないものであります。

父祖と門地との名譽にかけ、或いは家門と郷土との誇りとして百年数百年保持されていきました古文書記録類が、一魁の反故として売買され、刻々に姿を消してまいります現状を黙視するに堪えぬ者は、歴史研究者だけであつてはなりません。古文書記録もまた父祖の遺した貴重な文化財でありますばかりでなく、これは世界の民族史料としての重要な文献であります。これを遺憾なく保存・利用いたしますことは、日本人に課せられた名譽ある義務でなければなりません。このことは先般ライシャワー博士も指摘せられたところであります。そこで文化国家の建設を日本の至上任務と考ふる立場の人々は言うまでもなく、いやしくも一国の歴史と文化とに思いをいたす識者は、焚書の刑にも勝る現下の史料破壊現象に対しまして、無関心であることは許されなかりましよう。

それにも拘りませず、一部の学究や指導者達がこの現象に直面しながら、徒らに焦心憂慮を重ねるばかりで更に適切な応急措置を講じ得ませんのは、この蒐集保存を図りますだけの資力と設備とを持たないからであります。

未曾有の煙滅過程にあります民間史料を蒐集いたし、これの保存と利用とを図りまして、世界文化に貢献しますことは、もはや個人の力や、弱体化しました研究機関の手に負える事業ではありません。右の目的を達成いたします上に残されました唯一の途は、国立の史料保存機関(史料館)を設けて文書の散佚防止を講じますと共に、自家保存に堪えなくなりました民間の史料を國の力で蒐集する以外にはありません。

史料の危機は切迫しています。時機を逸しましたならば、文化国家を再建いたします上の重要な礎石を失つて、悔いを千載にのこすよりないのであります。

よろしく國家は、中央・地方に史料館を設置し、緊急に強力な史料蒐集事業を企画せられますよう茲に請願します。

野村兼太郎	高村 象平	羽原 又吉	洪沢 敬三	古島 敏雄
大塚 久雄	小野 武夫	増田 四郎	上原 專祿	所 三男
小松 芳喬	小林 良正	五島 茂	丸山 二郎	大久保利謙
石井 良助	岩村 忍	伊木 寿一	家永 三郎	吉川幸次郎
織田 武雄	石田英一郎	石田竜次郎	柴 三九男	渡辺 世祐
岩生 成一	山中 謙二	竜 爾	宝月 圭吾	西岡虎之助
森末 義彰	高柳 光寿	久保 正幡	黒正 敏	酒井正三郎
辻 善之助	岩井 大惣	飯塚 浩二	藤田 亮策	鳥羽 正雄
小西 四郎	和田 清	今井登志喜	荻野三七彦	小葉田 淳
山口 栄蔵	有賀喜左衛門	入交 好脩	宇野 脩平	舟越 康寿
矢口孝次郎	堀江 英一	熊谷 開作	牧 健二	鑄方 貞亮
三橋 時雄	原 随園	高橋誠一郎	山本 達郎	堀江 保蔵
柴田 実	穂積 文雄	坂本 太郎	安藤 良雄	藤井甚太郎

仁井田 陸	井上 智勇	柳田 国男	堀 一郎	西尾 実
古田 良一	高柳 真三	木下 彰	豊田 武	中村 吉治
長 寿吉	土屋 喬雄	村岡 哲	水野 清一	江上 波夫
金田平一郎	森 克己	竹内 理三	宮本 又次	日野開三郎
小林栄三郎	岸本誠二郎	高倉新一郎	松田 武雄	小林己智次
渡辺 侃	鈴木栄太郎	宮崎孝治郎	板野 長八	風巻景次郎
山口 和雄				

3 国立史料館の構想案（一九五〇年）

1、設置の趣旨

終戦後の社会的・経済的変動は、文書及び記録類中、殊に近世以降の夥しい史料を散逸、破壊の危険に瀕せしめているが、文部省としては、その散佚防止の一方策として、昭和二二年秋以来、各方面の支持と協力の下にこれらを収集保存する事業に着手した。爾来三年を経た現在、約七万点の文書・記録類を収集し、且つ三井文庫の施設を買収して、その整理保存を行いつつあるが、史料の分散・佚亡の実情は、金融逼迫、固定資産税の実施等の事情に促されて、一層の激化の傾向にすすんでいる。現在収集の主対象となっている近世の史料は、研究史料としては殆んど未開拓の分野に属し、且つその多くは庶民の日常生活に関する重要資料であることを思えば、これらの所在を組織的に調査し、又は収集、整理して研究者の利用に供することは、我が国歴史学の再建のために、是非とも遂行しなくてはならない文化的な重要使命である。したがって、その大なる責務に応えるためにも、本事業は文部省における一課の単なる附随的な仕事としてではなく、別個に本省直属の機関として、国立史料館を設置し、これが強力な運営を図ることを期待する。

2、性格及び機能

上述の趣旨にもとづき、国立史料館は史料の調査・収集を始め、史料の整理・保存及び利用の機関であり、史料に関する学問的研究並びにその啓蒙普及にも資すると共に、関係諸機関に対しては、連絡機関としての役割をも持つべきである。

3、事業

上述の趣旨を達成するため、国立史料館は主として次の事業を行う。

(1) 史料の調査

全国にわたる史料の組織的な調査を行いその所在・内容・数量・保存及び利用等の現状を明確にし、常に最新の情報を提供する。

(2) 史料の収集及び整理

上述の調査にもとづき、散逸・破壊のおそれある史料を始め、所蔵者が譲渡又は寄贈・寄託を希望する史料等を収集し、必要に応じ補修を加えて、これらを整理・保存する。

(3) 史料の公開

史料を利用に供するため、閲覧室・陳列室等を設け、閲覧規則に従って、所蔵史料を研究者のために公開する。

(4) 史料に関する刊行

所蔵史料の目録・全国的な史料の調査目録の作成・重要史料の複製及び史料に関する調査・研究報告等を刊行する。

(5) 史料に関する啓発

史料に関する知識の普及のため、一般及び研究者のため講習会及び史料展示会等を開催する。

(6) 史料取扱者の研修

史料の特殊性にかんがみ、館内の職員に対し、しばしば研究会、講習会等を開催して、特殊な教育と訓練とを実施し、取扱上の専門的技術を修得させ

る。

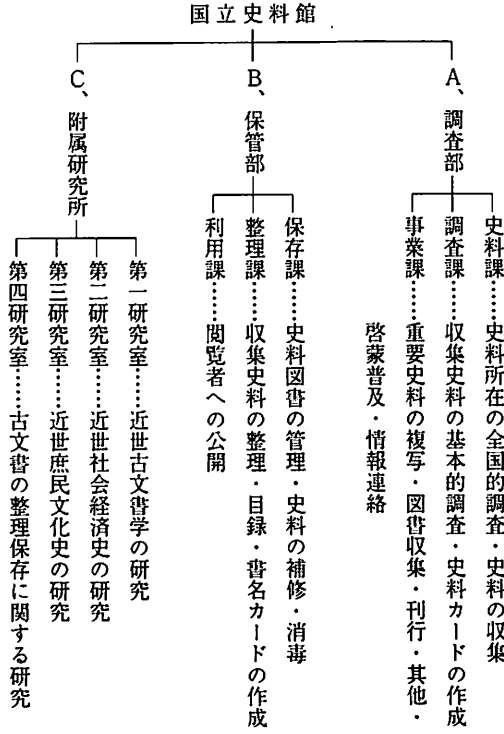
(7)史料保存のための援助

史料を保存する地方諸機関に対し、その保存・利用のための援助並びに指導を行う。

(8)史料に関する研究

所蔵史料を中心とする近世古文書学の研究並びに近世史一般に関する学術的研究を実施するため附属研究所を設置し、斯学の発展に資すると共に研究者の養成を図る。

4、構成



4 史料館規程 (一九五一年五月三〇日)

文部省令第十号

文部省設置法 (昭和二十四年法律第四百十六号) 第九條第十六号の規定を実施するため、史料館規程を次のように定める。
昭和二十六年五月三十日

文部大臣 天野 貞祐

史料館規程

(目的及び位置)

- 第一條 わが国の史料で主として近世のもの (以下「史料」という。) を収集し、保存し、及び利用に供し、併せて史料についての理解及び普及を図り、もってわが国における史学の研究に資するために、文部省大学事務局に史料館を置く。
- 2 史料館の位置は、東京都品川区豊町一丁目千百三十八番地とする。

(館長)

- 第一條 史料館に館長を置く。
- 2 館長は、文部事務官又は文部教官をもってあてる。
- 3 館長は、文部省大学事務局長の命を受けて、館務を総理する。

(評議会)

- 第三條 史料館に評議会を置く。
- 2 評議会は、史料館の毎年の事業計画その他の重要事項について審議し、館長に助言する。
- 3 評議会は、十五人以内の評議員で組織する。
- 4 評議員は、学識経験のある者のうちから文部大臣が任命する。
- 5 評議員の任期は、二年とし、補欠の評議員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 6 評議会に、評議員の互選による会長及び副会長を各一人を置く。
- 7 会長は、会務を総理する
- 8 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代理し、会長

が欠けたときはその職務を行う。

9 この規程に定めるものの外、評議会の運営に関し必要な事項は、評議会が定める。

(専門員会)

第四條 史料館に専門員会を置く。

2 専門員会は、史料の収集、保存、利用等に関する専門的事項を調査審議し、館長に助言する。

3 専門員会は、十人以内の専門員で組織する。

4 専門員は、史料に関する専門的な知識技能を有する者のうちから文部大臣が任命する。

5 前條第五項から第九項までの規定は、専門員又は専門員会に準用する。この場合において、第五項及び第六項中「評議員」とあるは「専門員」と、第六項及び第九項中「評議員」とあるは「専門員会」と、読み替えるものとする。
(運営管理に必要な事項)

第五條 史料館の内部組織その他その運営管理に必要な事項は、別に文部大臣が定める。

附則

この省令は、公布の日から施行する。

5 国文学研究資料館組織運営規則(一九七二年五月一日)

文部省令第二五号

国立学校設置法(昭和二十四年法律第一五〇号)第一〇条及び第二三条の規定に基づき、国文学研究資料館組織運営規則を次のように定める。

昭和四十七年五月一日

文部大臣 高見三郎

国文学研究資料館組織運営規則

(職員の種類)

第一条 国文学研究資料館(以下「研究資料館」という。)に、次の職員を置く。

館長

教授

助教授

助手

事務職員

技術職員

2 館長は、館務を掌理する。

3 教授は、研究に従事し、及び国立大学その他の大学の大学院における教育に協力するための学生の研究指導を行なう。

4 助教授は、教授の職務を助ける。

5 助手は、教授及び助教授の職務を助ける

6 事務職員は、庶務、会計等の職務に従事する。

7 技術職員は、技術に関する職務に従事する。

(内部組織)

第二条 研究資料館に、次の三部を置く。

一 管理部

二 文献資料部

三 研究情報部

2 前項に掲げるもののほか、研究資料館に、史料館を置く。

(管理部)

第三条 管理部においては、庶務、会計及び施設等に関する事務を処理する。

2 管理部に、その所掌事務を分掌させるため、文部大臣が別に定めるところにより、課を置く。

- 3 管理部及び課に、それぞれ部長及び課長を置き、事務職員をもって充てる。
- 4 部長は、館長の命を受け、部の事務を掌理する。
- 5 課長は、上司の命令を受け、課の事務を処理する。

(文献資料部及び研究情報部)

- 第四条 文献資料部においては、国文学に関する文献その他の資料の調査研究及び収集を行なう(研究情報部及び史料館の所掌に属するものを除く)。

- 2 研究情報部においては、国文学に関する研究文献及び研究に必要な情報の調査研究及び収集を行ない、並びに国文学に関する文献その他の資料の整理、保存及び閲覧を行なう(史料館の所掌に属するものを除く)。

- 3 文献資料部及び研究情報部に、その所掌事務を分掌させるため、文部大臣が別に定めるところにより、室を置く。

- 4 文献資料部及び研究情報部並びに室に、それぞれ部長及び室長を置き、部長は教授をもって、室長は教授又は助教をもって充てる。

- 5 部長は、館長の命を受け、部の事務を掌理する。
- 6 室長は、上司の命を受け、室の事務を処理する。

(史料館)

- 第五条 史料館においては、わが国の史料で主として近世のもの調査研究、収集、整理、保存及び閲覧を行なう。

- 2 史料館に、長を置き、教授をもって充てる。
- 3 前項の長は、史料館の事務を掌理する。

- 4 史料館に、その所掌事務を分掌させるため、文部大臣が別に定めるところにより、室を置く。

- 5 室に、室長を置き、教授又は助教をもって充てる。
- 6 室長は、上司の命を受け、室の事務を処理する。

(各部及び史料館の連携)

- 第六条 各部及び史料館においては、研究資料館の目的を効果的に達成するため

相互に緊密に連携し、館務の一体的な処理にあたるものとする。

(評議員)

- 第七条 研究資料館に、評議員二十人以内を置く。

- 2 評議員は、研究資料館の事業計画その他の管理運営に関する重要事項について、館長に助言する。

- 3 評議員は、国立大学の学長その他の学識経験のある者のうちから、文部大臣が任命する。

- 4 評議員は、非常勤とする。

- 5 評議員の任期その他評議員に關し必要な事項は、別に文部大臣が定める。

附 則

- 1 この省令は、公布の日から施行する。

- 2 研究資料館には、当分の間、第一条第一項に定めるもののほか、講師を置くことができる。

- 3 講師は、教授又は助教に準ずる職務に従事する。

6 行政管理庁行政監察局「国立大学及び国立大学共同利用機関に関する行政監察結果報告書(抄)」(一九八二年六月)

- 一、研究組織の位置付け及び運営の適正化

(一) 国立大学共同利用機関

ア 組織体制の合理性の確保

国立大学共同利用機関が、各大学の枠を超えて設置され、対象とする研究分野において中心的な研究活動を行うことを期待される組織であることからみて、二つの国立大学共同利用機関が類似の事業内容を目的とすることは避けられるべきものと考えられる。

しかし、既設の国立大学共同利用機関の設置の経緯、設置目的及びその活動実態を調査した結果、次のとおり、その事業内容の一部が類似していると認められるのがみられる。

〔事例〕

国立歴史民俗博物館は、「我が国の歴史資料、考古資料及び民俗資料を収集・保管し、公衆の観覧に供するとともに、歴史学・考古学・民俗学に関する調査研究を行う」ことを目的として昭和五十六年四月に国立大学共同利用機関として設置されている。

同館は、現在、昭和五七年度末の開館を目指して研究体制及び施設設備を整備中であるが、同館の全体構想によれば、歴史研究部、考古研究部、民俗研究部及び情報資料研究部の四部を置き、①歴史、考古、民俗に関する資料の収集・整備と、これら資料に基づく研究活動 ②関係研究者等に対する情報提供サービス ③一般公衆に対する展示等による教育活動を行うこととしている。

このうち、歴史研究部については、古代、中世、近世、近現代、都市及び村落の六研究部門を置き、文献資料及び実物資料の両面から各時代の特質、文化の変遷を究明し、各時代の資料の収集や基礎的調査研究を行うとしている。

他方、昭和四七年五月に国立大学共同利用機関として設置された国文学研究資料館は、国文学に関する文献その他の資料の調査研究、収集整理及び保存を行うことを目的としており、その附属機関として置かれている史料館においては、主として近世における歴史資料の収集整理、保存と、これらに基づく研究を行うものとされている。

こうしたことからみて、国立歴史民俗博物館が、歴史研究部を中心に近世を含む歴史資料（史料）の収集整備とこれに基づく研究活動を行うこととしていることは、その設置の段階から既設の国立大学共同利用機関と一

部類似した事業内容を目的としていたとみられる。

もとより、国立歴史民俗博物館が、歴史、考古、民族の各研究部が相互に連携・協力しつつ関係分野の研究を推進することを目指している以上、歴史関係、とりわけ近世だけを除外することは、効果的な事業運営を確保する上で支障を生ずることは否定できないものの、本機関の設置に当たり、既設の国立大学共同利用機関の中に事業内容の類似するものがある以上、この点について両者の調整を図り、望ましい研究活動体制を確立する必要性があったことはいうまでもない。

なお、国文学研究史料館が国文学関係と史料関係という二つの事業を行うこととしているのは、国文学研究資料館の創設に当たって、これを既に設置されていた文部省史料館（昭和二六年設置）の敷地に設置することとしたことに伴い、両者は国文学とその背景となる近世庶民史料という関連性があるとの理由で文部省史料館を国文学研究資料館の附属機関としたことによるものである。しかし、両者の事業活動は、その対象とする学問分野が異なることもあって十分な連携・協力の下に進められているとは認められない状況にある。

7 行政監察報告についての日本歴史学協会の要望書（一九八二年八月

一〇日）

要 望 書

日本歴史学協会は、日本の歴史学会・歴史学研究者を代表する機関として、学会・研究者が当面する諸問題について意見を表明し、その研究条件の改善のために努力してまいりました。歴史学研究と密接な関係にある「史料の保存・利用」問題についても、重要課題の一つとして、とくに本協会内に史料保存利用特別委員会を設置し、検討を続けております。

最近、行政管理庁がまとめた「国立大学及び国立大学共同利用機関に関する行政監察結果報告書」のなかで、国文学研究資料館付置の史料館と国立歴史民族博物館の歴史研究部とは、歴史史料の収集・保存など事業内容が類似しているとし、両者の調整を図るべきだという趣旨の勧告がなされていることに對し、本協会としても重大な関心をもたざるを得ません。

いうまでもなく、昭和四十七年に国文学研究資料館に付置された史料館の母体は、すでに早く昭和二十六年に、歴史学会・研究者の強い要望にもとづき、主として近世以降の史料の調査研究・収集・整理・保存・公開を目的として発足したものであり、以来三十年余の長期にわたり、わが国歴史学界に多大の貢献をしてまいりました。

特に同館が、従来あまり重視されなかつた庶民生活史料に重点をおいて、その収集・保存・公開に務め、わが国の歴史学研究に新風を送ってきたこと、およびわが国の史料保存利用機関における文書（近世・近代）整理の方法的基礎の確立や、専門職としての史料整理担当者「アーキヴィスト」の養成にむけて、中心的な役割を担ってきたことは、衆目の一致するところであり、近年、文書館法の法制化が問題となり、各自治体に文書館・歴史資料館等が次々に設立されている現状において、同館の存在意義はますます重要視されております。

したがって行政管理庁の改善勧告にもとづき、国文学研究資料館付置の史料館と、昭和五十六年に新たに設立された国立歴史民族博物館との業務内容の調整を図るにあたっては、上記のごとき史料館の果たしてきた機能・役割を十分ご理解いただくと共に、ひろく歴史学界等の意見を徴し、慎重に処置されますよう要望いたします。

昭和五十七年八月十日

日本歴史学協会委員長

日本歴史学協会

史料保存利用特別委員会委員長

中 田 易 直

竹 内 誠

文 部 大 臣

小 川 平 二 殿

8 行政監察勧告についての地方史研究協議会の要望書（一九八三年

五月二〇日）

要 望 書

地方史研究協議会は、全国の地方史研究者の総意によって、昭和二十五年に発足して以来、日本における地方史研究の発展に少なからず寄与してまいりました。また、その研究の基礎となる史料の保存・利用の問題にも多大な関心を持ち、本協議会の諸活動のなかでも中心的な問題としております。その基本的な方針は、昭和四十一年十月十六日付で声明いたしましたように、「地方史研究」八十四号掲載、諸資料（史料）の現地における完全保存及び全面公開・平等利用のために、各都道府県・各市町村毎に文書館を設立し、かつそれが民主的に設立・運営されるように求めているものであります。本協議会は、この方針にもとづき、日本学術会議による「歴史史料保存法の制定について」（昭和四十四年）、「文書館法の制定について」（昭和五十五年）という二つの政府への勧告の実現に努力してまいりました。また、各地方自治体による史料保存利用機関の設立にも協力しております。

さて、昨年六月に行政管理庁は、「国立大学及び国立大学共同利用機関に関する行政監察結果報告書」をまとられました。その中で、同庁は、組織体制の合理性の確保をはかるために、二つの機関が類似の事業内容を目的とすることは避けるべきものとし、事例として国立歴史民族博物館と国立国文学研究資料館付置の史料館との関係を指摘した上で、両者の調整を図るべきだとする勧告をされました。前述のような性格をもつ本協議会は、この勧告を重大な関心をもって受け

とめました。

国文学研究資料館付置の史料館は、昭和二十六年に、主として近世以降の史料の調査研究・収集・整理・保存・公開を目的として設置された文部省史料館を母体としております。その三十年余にわたる活動は、日本におけるはじめての文書館の機能をもつ機関として、また、文書資料整理の方法の確立や専門職としての整理担当者（アーキヴィスト）の養成にかかわる役割など、欧米はもとより開発途上国よりも遅れているわが国の文書館体制のなかで、大きな貢献をしてまいりました。特に地方史研究の発展に果たした役割には特筆すべきものがあります。

このような、国立国文学研究資料館付置の史料館と国立歴史民族博物館とを、各々の目的とする業務の一部に資料の保存等の共通する業務があるからという理由で、その調整を図るべきであるとする見解は両館の基本的な性格の違いを無視したものといわざるを得ません。むしろ、国立国文学研究資料館付置の史料館の性格を、より明確化することが急務であります。すなわち、国立文書館としての機能をもちた独立機関とすべきものと考えます。ここでいう国立文書館としての機能とは、各都道府県に設立されつつある文書館をはじめとした各地の歴史資料保存利用機関の収蔵史料や民間に所蔵されている史料の所在等の中心的情報機能を備えて一般の利用体制の確立を図ることや、前述のアーキヴィスト養成の研修の場としての機能が果たせるようにすることです。一方、国立大学共同利用機関としての研究機能は、史料の整理学、管理学、修復技術なども含む、史料そのものにかかわる基礎的な研究としての史科学の確立を図ることが急務と考えます。以上のような機能は、本協議会が編集した「歴史史料保存機関総覧」(昭和五十四年 山川出版刊)にみるように、全国各地に文書館、資料館等が設立されている現在、日本の歴史資料保存利用体制全体の中で、国立の機関に求められている機能であると確信いたします。文書館的機能をもつ他の国立諸機関(国立公文書館、同内閣文庫、国立国会図書館憲政資料室等)との関係も考慮に入れつつ国立国文学研究資料館付置の史料館の位置づけを考えるべきであります。

前述の行政管理庁の勧告が発表されて以来、日本の歴史学協会をはじめ、多くの歴史学関係の学会や研究者から、慎重な取り扱いをするよう要望書が提出されております。貴職におかれましても、これらの要望を尊重する方向で検討されているかに聞いております。本協議会は、この問題を単なる国立国文学研究資料館付置の史料館と国立歴史民族博物館との調整ではなく、日本の歴史資料保存体系全体の問題として検討されるべきものと考えますので、ひろく歴史学会の意見を徴し、歴史資料の保存と活用が有効になされますよう、慎重に対処されることを要望いたします次第であります。

昭和五十八年五月二十日

地方史研究協議会

会長 児玉幸多

文部大臣

瀬戸山三男殿

△注▽

このほかにも、歴史学研究会、歴史学研究会近世史部会、日本史研究会、天草・鶴田八洲成氏、大阪歴史学会、史学会、歴史資料保存利用機関連絡協議会、東北史学会、日本近世史研究者有志二二名等からも同趣旨の「要望書」が提出された。

9 行政監察勧告に対する文部省の回答(抄) (一九八二年一〇月)

文部省はこのほど行政管理庁に対し今年六月に勧告を受けた「国立大学及び国立大学共同利用機関に関する行政監察―研究施設の管理運営等を中心として―の結果について」の回答を提出した。そこでは指摘された関係機関に周知徹底し具体的な改善措置の検討を求めるとともに、その合理化、効率化に努める考えを示

している。特に①学部等の事務組織の合理化を図るため校地、校舎の配置状況など総合的観点から検討する②共通役務業務の民間委託を促進する③物品は一括購入し簡素合理化を図るなど条件整備を示している。行政監察は昨年夏に二十一年国立大学等の自然科学系研究施設を中心に行っている。

行政監察の勧告に対する文部省回答は次の通り。

一、研究組織の位置づけ及び運営の適正化

(1) 国立大学共同利用機関

ア 国文学研究資料館の史料館と国立歴史民族博物館の歴史研究部門等との組織の在り方については、関係分野の研究者の意向を尊重して運営されるべき国立大学共同利用機関としての両館の今後の方向に大きなかわりをもつこと、又、史料館の設立及び今日に至るまでの経緯にも配慮しなければならないこと等、慎重を要する問題であるので、その在り方等について、まず両館において関係研究者の意見も聴しながら検討することとし、その結果を踏まえ適切な方策について検討することとしたい。

なお、両館では勧告後、各面からの検討に入っている。(以下省略)

(昭和五七年一〇月二五日「文教ニュース」第六七一号より)

10 国文学研究資料館移転問題についての歴史研究者有志の要望書

(一九八八年二月二四日)

要 望 書

伝え聞くところによりますと、さる七月十九日の閣議決定にもとづいて、国文学研究資料館の移転の計画がたてられ、この十一月半ばに具体的な検討がはじめられたとあります。そして、それには、同資料館におかれている史料館(「国立史料館」)の移転も含まれているとあります。

わたしたちは、日本近世史を専攻する研究者として、かつての同史料館の組織的合併や移転について、それが研究・教育にとって大きな障害になることを指摘して、関連学会・日本歴史学協会、日本学術会議などの各方面に善処方をお願いいたしました。そのことは凍結されたまま現在にいたっておりますが、しかし、その後の同史料館の機構や活動については、同史料館の利用者であるわたしたちから見ましても、いくつかのおおきな問題があることも承知しております。しかしながら、わたしたちは、いま、右の報に接し、あらためて、とりいそいで要望をまとめる必要を痛感した次第であります。

わたしたちは、かつての文部省史料館の創立から現在までの「国立史料館」にいたるまでの設置の経緯を想起し、それをふまえて、とりあえず、次の事を要求いたします。

一、「国立史料館」の移転や機構の変更などについては、ひろく学会や研究者の意見を徴して、慎重におこなうことを、わたしたちは要求します。

いま、同史料館のある場所は、かつて肥後細川氏の屋敷地であったという歴史的な由緒をもっているところでありますが、同史料館が日本近世史の研究と、学生にたいする歴史教育や研究者の養成において、大きな役割を果たしてきたのは、同史料館が、その設置形態を変えつつも、いまの場所におかれ続けてきたということと密接に関係しております。それには、最近、学会や研究者の意見などをほとんど聞くこともなく、国文学研究資料館の移転にもなう同史料館の移転が計画されているとありますし、仄聞されます移転候補地も、現在とはかなり条件の異なるところのようであります。現在各地の研究機関などのあり方をみますと、このような移転が実現した場合、これまで同史料館が持ってきた役割すらも果たしえなくなるであろうことはほほ明らかであり、それは、日本歴史の研究・教育にとって大きな損失になるものと考えられます。わたしたちは、「国立史料館」の移転やそれにもなう機構的変更などについては、ひろく、学会や研究者の意見にもとづいて、慎重に、決定・実行されることを求めます。

二、「国立史料館」の組織・活動上の拡充のための措置が早急に行なわれるよう、わたしたちは要求します。

わたしたちは、いまの同史料館の組織・運営についてもいくつかの不満をもっており、同史料館は、①日本近世の、とくに庶民史料を主体とした古文書を蒐集し保存し整理し公開すること、②それにとりまわらず、史科学や史料保存・整理などの技術についての研究をおこない、かつ指導すること、③各地に所在する近世史料についての情報を蒐集し、公開すること、④各地の研究誌や県市町村史などの地方史誌をはじめ、ひろく地方史研究に関する情報を蒐集し公開すること、などの機能をもつべきものとわたしたちは考えます。そしてそれらの仕事は、いづれも部分的におこなわれてはいますが、いまだまったく不十分であるといわなくてはなりません。そして、それは、同史料館の館員数が少ないこと、活動・運営のための予算が低額で固定されていること、専任史料館長が欠けているなどの機構・組織上の欠陥があることなどによるものと思われ、わたしたちは、「国立史料館」は独立するべきものと考えますが、当面はまず、右の機能がより充分におこなわれるような措置がとられることが必要であると考え、日本近世史の研究と歴史教育とに携わっているものとして、その措置が早急に行なわれることを求めます。

一九八八年十二月二四日

(別紙に署名者の名前を列記します。)

署名者名簿(十二月二十二日現在)

浅倉 有子	浅見 恵	阿部 昭	荒野 泰典
有光 友学	池 享	石田 千尋	岩田浩太郎
宇佐見ミサ子	大口勇次郎	大館 右喜	大野 瑞男
小野 正雄	賀川 隆行	片倉比佐子	加藤 栄一
門前 博之	神崎 彰利	北島 万次	北原 進

△注▽

この要望書は、文部大臣、国文学研究資料館長、同館評議員同館運営協議員、日本学術会議等に送付された。

木村 直也	久保田真継	久留島 浩	黒田日出男
五野井隆史	小宮木代良	斉藤 司	*佐々木潤之介
白川部達夫	菅野 則子	杉本 史子	鈴木 秀幸
高木 昭作	高埜 利彦	高橋 敏	*竹内 誠
鶴田 啓	豊田 寛三	所 理喜夫	長野ひろ子
西垣 清次	則竹 雄一	橋本 政宣	林 玲子
林 英夫	広瀬 良弘	比留間 尚	深谷 克己
福田アジオ	藤木 久志	藤野 保	保谷 徹
松井 洋子	松本 良太	*松本 四郎	三浦 俊明
三上 昭美	峰岸 純夫	峰岸賢太郎	宮崎 勝美
宮地 正人	村上 直	森田 武	安丸 良夫
山口 徹	山口 啓二	山田 忠雄	山本 博文
横山 伊徳	吉田 伸之	吉原健一郎	

(*呼び掛け責任者)